



Kobe College Bulletin

NO. 186 2019.7.11 神戸女学院

学報委員会

武田清子先生 (J54) の思想と神戸女学院の原点

院長 飯 謙

150年に及ぶ歴史をもつ神戸女学院から、多くの卒業生が輩出しました。日本近代の思想史で顕著な活躍をした人をあげるならば、誰もがその筆頭に、武田(長)清子先生を置くことでしょう。先生は惜しくも昨年4月12日、100歳で天に召されました。本稿では先生の生涯と思想の素描を試み、時代の節目を迎えようとするわたしたちへのメッセージを得たく存じます。

武田清子先生は、1917年6月に伊丹で誕生されま した。1歳の時に父上が召されましたが、教養豊か な母上のもとで先進的な教育を受けて育たれます。 県立伊丹高等女学校で優秀な成績を収め、教員は東 京女子師範学校(現お茶の水女子大学)を勧めまし たが、母上が神戸女学院を推されました。その理由 は、母の目から見て、娘は「自我の強い人」のため 「宗教が必要」であり、かつ「英語も話せて世界各国 の人々と交流できるようになる教育」が大切と考え たからだとのことです(武田清子『出逢い 人、国、 思想』キリスト新聞社、2009年、p. 14)。神戸女学院 『寄附行為』の「まえがき」には、神戸女学院の教育 の根幹が「創立当初から…キリストの教えと国際理 解の精神しとあります。武田先生のお母様は当然こ のような一文をご存じなかったはずですが、本学院 の方針は近隣に響いていたということでしょう。そ うして岡田山移転の翌年である1934年春、武田先生 は神戸女学院生となられたのです。

先生は旧制高等部(3年制)入学直後、校風にカルチャーショックを受けたことを強調しておられます。県立学校の伝統的な厳しい校則で暮らしてきた身に、神戸女学院のそれは緊張を欠くものと映りま



した。やがてそれが「内的規律」を引き出すものであることに思い至り、「自由・自治」の精神を学び、内外の古典や近代の思想書を耽読。旧制大学部(3年制)に進まれてからは YWCA に所属して学内の宗教活動に参加し、C.B. デフォレスト先生ら宣教師の先生方とも交わりを深められます(『出逢い』pp. 20-24)。神戸女学院のリソースと十分に向かい合い、大学部2年生になる直前の1938年3月、徳憲義牧師から神戸平野教会(第二次大戦後、現在の日本基督教団神戸教会と合併)で受洗されます。徳先生が宗教強調週間の講師をつとめられたことで導かれました。この間にリベラルアーツを旨とする学修環境の中で、宗教哲学やキリスト教倫理への関心が拓かれます。

大学部3年在籍中の1939年夏、アムステルダムで 開催された第1回世界キリスト教青年会議に派遣さ れ、そのまま交換留学生として米国に回って、姉妹 校のミシガン州オリヴェット大学に留学。このリベ ラルアーツ大学で、神戸女学院において種蒔かれた 関心を拡げ、さらにニューヨークのコロンビア大学 とユニオン神学校大学院に学ばれました。ユニオン では、ラインホルド・ニーバーやパウル・ティリッ ヒら、時代を代表する研究者の指導を受け、神学の 枠組みにとどまらない、文化論や政治、国際関係論 など幅広い領域をカバーする思想史家としての地歩 を固めます。筆者なりに武田先生の学的な姿勢につ いて述べるなら、経済的な成果を優先し弱い立場の 人をさらに過酷な状況に追いやる社会悪を、聖書が 語る原罪の問題に結びつけて解決の糸口を求める、 宗教改革以来の伝統的理解を重視した、堅実かつ穏 健なスタンス。

ニーバーとティリッヒには、ドイツで生まれ米国 で神学を展開した――異質な風土で開花したという 共通点があります。両者とも20世紀後半の日本のキ リスト教理解に大きな影響を与えました。武田先生 はその紹介者でした。先生はご帰国後も YWCA、 敗戦後は「思想の科学」など、キリスト教に立つ社 会運動や思想形成の導き手として役割を果たしまし た。1953年からは創立間もない国際基督教大学の教 員となり、1988年の引退後も平和や人権の問題で精 力的な活動を続けられます。神戸女学院のためにも 情熱を注いでくださいました。特に『百年史各論』 の「思想史的に見た昭和期の学院」(pp. 373-396) は、本学院に連なる人が繰り返し読むべき、記念碑 的なご論稿です。また他に残されたものにも(もち ろん神戸女学院だけに宛てたものではありません が)刺激的な示唆が満ちています。

その一つは先生が最晩年に雑誌『婦人之友』(婦人 之友社、2017年8月号)で国際法学者の最上敏樹氏 となされた「違いは恵みです」という表題の対談で す。先生はこの中で歴史の見方についておおむね次 のように述べておられます([] は筆者の補足)。 歴史はいつも動いているものであり、否定的に見る とすべてが無意味となってしまう。[それでは]無 責任になってしまう。可能性に見えないものを可能 性としていくポジティヴな見方が歴史への向き合い 方(pp.94-95)。人類には神から使命が与えられて いて、[無意味、異質と映るものも] 放棄しないことが必要 (p.98)。普遍的というのは「同じ」ではなく、異なるものが互いの価値に対して門戸を開き、価値を発見し合う。[そうして] 多様な価値が普遍的に育てられていく (p.99)。神は人類に無意味なように見えるところから価値を生み出すことを課題として与え、眺めておられる。キリスト教は普遍的な価値を人類に投げかけている。それは神の約束でもある。その課題にチャレンジしていく。それが単なる楽観主義ではなく、人類に希望をもたせるものだ (p.100)。最後は「今の時代はこうだと言って「あきらめて」しまわない (笑)」(p.104) と締め括っておられます。

かなり乱暴な要約となってしまいましたが、歴 史、可能性、責任、使命、課題といったキーワード を読み取れます。それは武田先生が『百年史各論』 でデフォレスト先生について述べた文章「デフォレ スト先生は、一人一人が自主性をもって自らの果た すべき責任を十分に果たす人間となるという意味で の自由を大切にされ…[神が]他の誰もなしえない …社会に貢献…できるチャンスを一人一人に与えて いる [と語られた]」(『百年史各論』p. 389) にも見出 されます。これが武田先生がデフォレスト先生から 学び、神戸女学院において出会い、神戸女学院を創 立した米国会衆派教会で認識されたキリスト教理解 の骨組みとなった信仰で、現在の中高部ウェブサイ ト「神戸女学院中学部・高等学部は、こんな学校で す」にも、大学の「ミッションステートメント」に も活きています。

神戸女学院は6年後の2025年に創立150周年を迎えます。これは数字上で自動的に巡り来る、単なる祝年ではありません。わたしたちがそもそもいかなる祈りのもとに建てられたのかを吟味し、共有し、軌道修正する機会です。学院では昨年度、皆様からのご寄付と国の助成によって「美装化」という呼び名の校舎の補強工事をしました。その中で講堂正面上に描出された校章のレリーフが元来の輝きを取り戻しました。これにはわたしたちが神戸女学院のミッションの再確認という象徴的な意味があると感じます。武田先生が語られる歴史とキリスト教と神戸女学院——それらを受け、節目の時に向けて、わたしたちの原点を改めて心に刻む営為を続けてまいりたく存じます。

KCCだより

KCC-JEE は、2020年に創立100周年を迎えようとしています。

KCをサポートするシカゴ・アメリカに在る NPO として、このような小さな団体が続いてきたことは、KC 卒業生にとって、特にアメリカ在住者として本当に有難いことと思います。また、母校の国際的な繋がりの深さを誇らしく感じます。

前号に続き、KCC-JEE がどのような団体である のか、ご紹介させていただきます。

KCC-JEE のメインプログラム、1) ガチョック 教師リクルート、2) グラデュエート フェローシップ プログラムの2つを以下に記します。

1) Gottschalk Teacher of English Recruitment

The recruitment period starts at the beginning of June when the announcement of the Gottschalk Teacher position openings, the recruitment calendar, and the application instructions are posted on the KCC-JEE website. It concludes at the end of August when the full application package of the finalists for the position(s), including the recruitment committee members' reports of the interviews with these finalists, are sent to Kobe College.

The recruitment announcement is posted on various relevant job posting websites such as Dave's ESL Café and GoAbroad. com, as well as by connecting with eighty or so educational institutions, organizations and individuals. Keeping the job posting contact list that we work from up-to-date is a struggle at times as the recruitment in the cyber world seems to expand and evolve rather quickly. We are fortunate to have Kanae Takenaka, our wonderful and tech-savvy Office Administrator handling much of the posting work. The application filling period ends in mid-July.

In 2018, 36 qualified applicants had submitted the required application documents by the July 14th deadline date. Based on the examination of these documents, the recruitment committee chose 13 applicants to advance to be interviewed by telephone during the following two weeks.

It is during this time period also that we contact

the three reference sources of each applicant's choosing. The referees' responses and the phone interview results provide added insight as we prepare to further narrow the field down to the finalist group in early August. The selected finalists are invited to travel to Chicago in late August for in–person interviews with the recruitment committee. The size of the finalist group varies depending on the number of the positions to be filled, and the quality of the applicants. In 2018, we selected 5 finalists for 2 position openings.

As for what the most important point was in determining last year's selection, I must say "fit" is the word that describes the quality that we always look for in those who aspire to be Gottschalk teachers. This is in addition to the finalist's demonstrated skill level as ESL teachers, of course. The qualities that would make one a good "fit" for KCHS include respect and appreciation of the rich and unique tradition of the English education at KCHS, and the blend of independence and collegiality in one's actions.

Once Kobe College makes the hiring decision and extends a job offer, KCC-JEE has minimal direct contacts with the future Gottschalk teachers for the most part. We do enjoy close working relationships with KC Chancellor's office, and with KCHS English Department Head, Inagaki-sensei, allowing us to be aware of and involved in the Gottschalk teachers' lives on Okadayama.

Our biggest fear every recruitment cycle is that we would fail to attract enough highly qualified applicants for us to select from. We have been quite fortunate for the last few years. The overall number of applications received in 2018 was somewhat lower than the previous year. We were happy to have some excellent applicants, however. We will continue to work on developing contacts to get the word out to new Gottschalk teacher prospects. (Fumiyo Young)

1) ガチョック教師リクルート

ガチョック教師の募集は、空きポジションの発表、募集カレンダー、及び募集要項の発表が KCC-JEE ウェブサイトに掲載される6月の初めに 開始されます。そして最終選考に残った候補者への インタビューに関するリクルート委員会メンバーの 報告及び、その候補者の全応募書類を8月末に神戸 女学院に送ることで締めくくられます。

求人のお知らせは、Dave's ESL Cafe やGoAbroad.comをはじめ、80を超える教育機関、団体、個人につながるさまざまな関連求人サイトに掲載されます。オンラインでの採用が急速に拡大、進化しているため募集先リストを常に最新の状態に保つこと、新たな求人方法に対応することは大変です。技術に精通したオフィス事務員(竹中香苗氏)が掲載作業の大部分を担当してくれることは幸いです。募集期間は7月中旬に終了します。

2018年には、募集要項をクリアした36人の申請者が7月14日の締め切り日までに必要な申請書類を提出しました。リクルート委員会はその後2週間で審査基準に基づきこれらの書類を精査し、第1次面接である電話面接の候補者として13人の応募者を選びました。

また、この期間中に、各応募者の選んだ3人にリファレンスチェック(身元照会)をします。このリファレンスチェックの回答及び電話インタビューの結果により、8月初めにファイナリストを絞り込みます。最終選考に残った候補者は、8月下旬にリクルート委員会との直接面接のためにシカゴへ招待されます。最終選考グループの規模は、募集するポジションの数と応募者の質によって異なります。2018年、私たちは2名の空きポジションに5名のファイナリストを選びました。

リクルート委員会が選考を決定する上で最も重要だと思う点は、神戸女学院への"フィット"です。これはガチョック教師の候補者たちに対し私たちが常に求めている質を表します。もちろんこの質はファイナリストの ESL 教師としての資質を満たしたのちに考慮されるものです。神戸女学院中高部に最もフィットする、すなわち最もふさわしい資質には、神戸女学院中高部の英語教育の豊かで独特な伝統の認識と尊重、そして自身の行動における独立性と協調性が含まれます。

神戸女学院が採用決定を下し、採用条件を候補者に提示したのち、KCC-JEE は未来のガチョック教師と直接連絡を取ることはほぼなくなります。しかし、私たちは神戸女学院院長室の方々、そして神戸女学院中高部 英語科主任の稲垣先生と密接な協力関係によってガチョック教師の岡田山での生活を垣

間見ることができます。

私たちが募集の際に最も心配していることは、優秀な応募者を十分に確保できないことです。非常に喜ばしいことに私たちはここ数年、優秀な候補者を確保することができました。2018年の応募総数は、前年より若干少なかったのですが、優秀な応募者がいました。私たちはこれからも新しいガチョック教師採用の前途のために募集先を開拓することに取り組み続けます。

2) KCC-JEE Graduate Fellowship

The KCC Japan Education Exchange Graduate Fellowship Program was established in 1996 to support qualified PhD graduate students for research or study in Japan. The purpose of the fellowship is to support future American educators who will teach more effectively about Japan. One fellowship of \$30,000 is awarded. Applicants may request to carry out their studies at Kobe College (Kobe Jogakuin) for the award year, if selected. There have been two Fellows who have carried out their research at Kobe College: Cindi Sturtz Sreetharan (in 1998) and Vera Hanaoka (2018–2019). We anticipate more in the future.

To date, we have funded 17 Graduate Fellows; this year, we will provide funding to the 18th Fellow. Of the 17 funded Fellows, over 75% of them have been awarded their PhDs within 2 years of completing their funding year. All have gone on to hold academic positions at universities in the US, UK, and Japan. We are very proud of our Graduate Fellows and our ability to support the engaging research that they do. They are among the future educators of global citizens.

Each year we advertise the Fellowship in January with a deadline of submission around March 15 (or the closest Monday to that date). Sometimes we extend the deadline as necessary. We announce the award to the selected Fellow around the end of April and try to receive a signed contract by May 10 at the latest. Since the Fellowship began, we have a yearly average of 8 applicants. We advertise in various venues: Email list-servs; Facebook Groups; fellowship or funding email list-serves; personal

emails to programs in the US that award degrees to people working on Japanese related topics, and so on.

The Fellowship committee individually reads each application and ranks them. The committee is comprised of current or emerti faculty of various US universities who have experience with KCC-JEE and contemporary scholarship on Japan. After ranking the applications individually, we meet (virtually) as a committee and discuss our rankings. Ultimately, we choose the top candidates and put them into a ranked order (1st, 2nd, 3rd, etc.) so that should the person in the number 1 position decline the offer, we can immediately move onto the next person.

As for what the most important point is in determining selections, it is not just one point. It is a combination of qualities that we seek: is their proposal interesting and clearly communicated; do they have the necessary language skills to carry out the proposed research; what kind of commitment do they have (in the future and now) for advancing the education of women; and so on.

This is a small sample of the past fellows' projects and research topics:

2018–2019: Ms. Vera Hanaoka is researching the ways that Japanese language learners develop an "identity" when speaking Japanese. 2017–2018: Dr. Vivian Shaw worked on the increased hate-speech that is occurring in Japan; she worked specifically around the post-3/11 context of discrimination among people who had been near to radiation; but she is also interested in racial discrimination that is on the increase (in terms of public displays of racism). She is also interested in social movements in general.

2001–2002: Pamela Winfield, KCC-JEE Graduate Fellow in 2001–2002, conducted research in the field of religious studies. She is currently an Associate Professor at Elon University; in 2013 published a book with Oxford University Press entitled *Icons and Iconoclasm in Japanese Buddhism: Kukai and Dogen on the Art of Enlightenment.*

Unfortunately, I don't have data for the relationship between the past fellows and KCC-JEE/KC after their term. But I (Cindi) was a past Fellow and continue to be very close to both KC and serve as a board member on KCC-JEE. Marnie Jorenby was also a Fellow (although she declined the award) and continues to have a relationship with KC and KCC-JEE.

Those of us on the KCC-JEE Graduate Fellowship Committee believe strongly in the Fellowship Program. Funding for PhD research is increasingly thin and unpredictable. In addition, we know that doing research about Japan is not enough; we need students who have spent time experiencing Japan in real time—something that archival research does not provide. (Cindi Sturtz-Sreetharan)

2) KCC-JEE グラデュエート フェローシップ プログラム

KCC-JEE グラデュエートフェローシッププログラムは、博士課程を修了した大学院生を日本での研究または勉強のために支援するという目的のもとに1996年に設立されました。30,000ドルの奨学金を1名に授与し、日本についてより効果的に教えることのできるアメリカ人教育者を支援します。選考された場合、研究生は、神戸女学院大学で研究することもあります。過去2名の研究生が神戸女学院大学にて研究をおこないました。私たちは将来より多くの研究生が神戸女学院を訪れることを期待しています。

現在までに、私たちは17人の研究生に出資しており、今年は、18回目の奨学金授与になります。17名の資金援助を受けた研究生のうち、75%以上が、奨学金受給年度終了後2年以内に博士号を授与されています。全員がアメリカ、イギリス、そして日本の大学でアカデミックに携わる仕事を続けています。私たちは、すべてのグラデュエートフェローシップ研究生および彼らがおこなっている魅力的な研究を支援し続ける私たちの使命をとても誇りに思っています。彼らは未来の教育者の一人なのです。

グラデュエートフェローシッププログラムの募集スケジュールは毎年1月に奨学金の公募を開始し、3月15日(またはその日の直近の月曜日)頃に提出期限を設けます。必要に応じて期限を延長することもあります。私たちは4月の終わりに選ばれた候補者に受賞を告知し、遅くとも5月10日までに正式に

契約を交わすようにしています。KCC-JEEの奨学金授与がはじまって以来、年間平均8人の応募者がいます。募集は KCC-JEE 独自のメーリングリスト、Facebook のグループ、奨学金のメーリングリストなど様々な方法で宣伝しています。また日本に関連した学位を与えるプログラムを持つ米国内の機関へも電子メールを送ります。

募集を締め切った後、フェローシップ委員はそれぞれの申請書類を個別に読み、各自でランク付けします。委員会は、KCC-JEEと近年の日本の奨学金についての知識、経験のあるアメリカのさまざまな大学の現職、または名誉教授で構成されています。アプリケーションを個別にランク付けした後、私たちは委員会として集まり、お互いの選考について話し合います。その後、私たちはトップ候補者を選び最終的なランク付けをし、1位の人に受賞を伝えます。その候補者が受賞を辞退したらすぐに次の人に賞を譲ります。

選考を進める際、最も重要な点は1つだけではありません。それは私たちが求めている資質の組み合わせです。興味深い彼らの提案が正しく伝わっているか、彼らは提案した研究を実行するために必要な言語スキルを持っているか、神戸女学院及び、KCC-JEEの概念の根底にある女性の教育を推進するために現在そして今後どのような意志を持っているかなど受賞者の選考に際し多岐にわたり考慮します。

残念ながら過去の授与者と KCC-JEE 及び KC との契約終了後に関するデータはありません。しかし、私(シンディ)は過去のフェローであり、神戸女学院とは親密な関係を続けまた、KCC-JEE では理事を務めています。同じく理事であるマーニージョレンビーもまた辞退はしましたがフェローに選ばれた経歴があり、いまだに神戸女学院とKCC-JEE との関係を維持しています。

KCC-JEE グラデュエートフェローシップ委員会のメンバーは、このプログラムに対して確固たる信念があります。博士課程の研究のための資金提供は年々減少傾向にあり、予測不可能です。また、私たちは日本に関する研究を机上でおこなうだけでは不十分であり、資料の研究だけでは得ることのできない何かを得るために、実際に日本を経験する研究生が必要であるということを認識しています。このプログラムを通してこのような状況をサポートし続けていきたいと考えています。

愛校バザー報告

毎年、創立者タルカット先生のお誕生日の週を神戸女学院では愛校週間と定めて、先生を記念する行事をおこなっています。1911年から続いている愛校バザーもその一つです。今年は5月25日(土)に開催されました。グラウンドには昨年に引き続いて中型テントを設置いたしました。当日快晴との予報により、前日のうちに「晴れバージョン」にて開催の旨をご奉仕くださるみなさまにお知らせすることができました。

午前10時、飯院長の開会宣言により開会。長い行列ができていたお店などもあり、盛況と見受けられましたが、昨年度より入場者数が少なかったのは午後からの気温上昇の影響があったのかもしれません。

学院に関わるみなさまのご協力・ご支援により今年も無事に愛校バザーが開催できましたことを、感謝をもってご報告申し上げます。

来年度は、創立145周年記念愛校バザーとして、2020年5月23日(土)に開催させていただきますので、どうぞ覚えてお出ましください。

(愛校バザー実行委員長)



中型テントが設置されたグラウンド







第二体育館内売店の賑い

神戸女学院教育振興会寄付金

平素より神戸女学院教育振興会募金事業にご厚志 ならびにご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

2018年度のご寄付実績を下記の通りご報告申し上げます。ご芳志は特にご指定のない限り「岡田山キャンパス改修費用」「学生生徒の奨学基金」に折半して活用させていただきます。

	区 分	件数/冊数	金額(円)
	同窓生	685件	65,024,705
現会	保護者(大学・中高)	183件	13,618,000
現金によるご寄付	役員(教職員を除く)	22件	1,310,000
よる	教職員・旧教職員	82件	4,708,300
ご皮	法人・団体	25件	3,440,853
付付	一般有志	10件	839,000
	現金によるご寄付計	1,007件	88,940,858
	古 本 募 金	11,073冊	960,450
教育	育振興会寄付金額合計		89,901,308

※複数の区分に該当される方の場合は、事務処理上 妥当と思われる区分を選択しております。



神戸女学院2018年度決算報告 及び2019年度事業計画

2018年度に実施した事業の内容及び2019年度事業計画の詳細は、『2018年度事業報告書』に記載しております。以下の本学院ホームページをご覧ください。

http://www.kobe-c.ac.jp/foundation/financial/index.html また、当該ホームページ上では、決算書も公開しておりますので、併せてご参照ください。

I. 2018年度神戸女学院決算報告

1. 事業活動収支計算書

事業活動収支をみると、事業活動収入計は51億40百万円、事業活動支出計は50億42百万円となり、基本金組入前当年度収支差額は98百万円となりました。当該収支差額は、教育活動収支差額25百万円、教育活動外収支差額52百万円、特別収支差額20百万円によって構成されています。

(金額は単位未満を切捨表示しているため、内訳 を加減算したものと合計額・差引額は一致しませ ん。以下同じ。)

まず、教育活動収入(50億57百万円、前年度比 △20百万円)をみると、学生生徒等納付金(41億14 百万円、前年度比△16百万円)は中高部において在 籍者数が微増した一方、大学及び大学院の在籍者数 は微減し、全体の収入はやや減少しました。手数料 (1億7百万円、前年度比+4百万円)は、大学にお いて2018年度入試の影響を受け私立大学全般的に難 化の傾向にありましたが、人間科学部や音楽学部の 志願者が増加し、全体では微増となりました。寄付 金(1億24百万円、前年度比+33百万円)は遺贈を はじめとする複数の大口寄付をいただいたことに加 え、教育振興会への寄付件数も増加しており、収入 増に寄与しました。経常費等補助金(4億30百万 円、前年度比△1億円)は、前年度大学ITリプレー スによる教育研究経費増の影響で例年より増額と なった大学の私立大学等経常費補助金 (一般補助) の特殊要因の剥落から増減率がマイナスに影響、更 に私立大学等改革総合支援事業も不採択となり、大 学において大幅な収入減となりました。一方、中高 部の兵庫県経常費補助金については、前年度から7 百万円の増収となっています。雑収入(2億20百万 円、前年度比+76百万円)は、私学退職金財団交付 金(1億71百万円、前年度比+1億20百万円)が主 で、長期勤続者が例年より多く退職したことによる 増加です。その他、台風21号被害に係る保険金収入 (10百万円) や、貸与奨学金に係る徴収不能引当金戻 入額も含まれています。

一方、教育活動支出(50億32百万円、前年度比+1億49百万円)をみると、人件費(31億62百万円、前年度比+1億3百万円)は退職関連費用の増加が主な増加要因です。教育研究経費(15億27百万円、前年度比+80百万円)は、重要文化財の美装化事業として、理学館及び総務館の美装化工事を実施、そ

の他施設維持費用や学生生徒の安全確保を図るための警備強化費用など、修繕費や業務委託費が増加しています。管理経費(3億41百万円、前年度比△30百万円)は、前年度実施した各種ホームページのリニューアルも概ね終了し、前年度計上していた社交館食堂の机椅子の現物寄付受入による消耗品費増という特殊要因も剥落したため減少しています。

以上のような要因により、教育活動収支差額は25 百万円(前年度比△1億69百万円)となりました。

次に、教育活動外収支についてみると、2018年度も低金利の中、金銭信託運用益の確保につとめ、前年度比減となるものの、受取利息・配当金は53百万円確保することができました。一方、借入金の無利息期間が終了したことにより借入金利息は微増し、教育活動外収支差額は52百万円(前年度比△90百万円)となりました。

さらに、特別収支についてみると、前年度は六甲セミナーハウス等の売却による資産売却差額(16百万円)を計上していましたが、2018年度は車両買替えによる売却差額のみ計上、その他の特別収入は、重要文化財美装化事業補助金(25百万円)や大学図書館で電子書籍購入のための私立大学等研究設備整等補助金(2百万円)等を計上し、特別収入は29百万円(前年度比△40百万円)となりました。一方、特別支出として、主に老朽化に伴う取替により発生した研究機器や図書等の除却損(7百万円、前年度比△6百万円)などを計上し、特別収支差額は20百万円(前年度比△35百万円)となりました。

これらの3活動により、基本金組入前当年度収支差額は98百万円となり、講堂・総務館耐震改修工事や大学図書館システム更新等による固定資産の増加や建物借入金の返済など、資産取得にかかる支出額から除却・売却による減少額を控除した第1号基本金組入(1億40百万円)、及び奨学基金等への計画的な組入れとして第3号基本金組入(40百万円)、合計1億80百万円の基本金組入をおこなった結果、当年度収支差額は△82百万円(前年度比△3億92百万円)となりました。当年度収支差額に前年度繰越収支差額(△12億16百万円)を加味した結果、翌年度繰越収支差額は△12億98百万円となりました。

2. 資金収支計算書

資金収支をみると、事業活動収支で述べたような減収、費用増加要因に加え、学生生徒の学習環境整備等のための支出も増加したため、前年度のような資金増(+4億35百万円)とはならなかったものの、キャッシュベースの収入合計51億12百万円、支出合計49億88百万円を計上したことにより、翌年度繰越支払資金は31億18百万円(前年度比+1億24百万円)となりました。

3. 貸借対照表

(1) 資産の部

【固定資産】154億85百万円(前年度比△1億78百万円)

(単位:百万円)

古类活动原士社会自

事業	美活 重	加攻支計:	(単位:	百	万円)			
		科	I	本年度 予算	本年度 決算(A)	前年度 決算(B)		自減 -(B)
	収事入業	手	等納付金数 料付金	4,115 98 53	4,114 107 124	4,131 102 90		16 4 33
教育活動収支	入の部が	程常費 付随事	等補助金	419 61	430	531 76		100
活動		雑	汉 入	214	220	144		76
収		教育活	7. 1	4,962	5,057	5,077		20
支	支出の部 部	教育研管理	件	3,147 1,542 361	3,162 1,527 341	3,059 1,447 371		103 80 30
	が活部動	徴収不	能額等			4	\triangle	4
	HP 243	37¢ 13 1H.	動支出計	5,051	5,032	4,882		149
**	II 전 제로	教育活動 受取利息	加支差額	<u>△ 89</u>	25	194	\triangle	169
教育活	収入の部 部	教育活動		53 53	53 53	143	\triangle	89
重力		借入金	file of it is	0	0	0		0
外収	支出の部 事業活動	教育活動		0	0	0		0
支		教育活動	外収支差額	52	52	142	\triangle	90
		経常収		△ 37	77	337	\triangle	259
	収事 入 の 活	資産売		0 99	0 29	16 54		16 24
特	の活部動	- ,-	又 入 計	99	29	70		40
別		資産処		9	7	13	Δ	6
収支	支出の記	その他の	10/00/2011	2	2	0		1
	部動	特別	支出計	11	9	14	Δ	4
基本	七 金組	特別収 入前当年)	と 支差額 度収支差額	87 50	20 98	56 393		35 295
基	本金	/ V 119 1 /	額合計	△ 181	△ 180	\triangle 83		96
当			支差額	△ 130	\triangle 82	310		392
前	年度	// // /	~ / F/V	<u></u> △1,216	$\triangle 1,216$	△1,528		311
基	本	金 取	崩額			1	Δ	1
갶	年度	繰越収	支差額	△1,346	△1,298	△1,216	\triangle	82
$\overline{}$	考)	T. Al. 1	7 7 =1	F 11.4	F 140	F 001	_	150
事	業	活 動 4	又入計	5,114	5,140	5,291	\triangle	150

有形固定資産(84億48百万円、前年度比△1億66 百万円) については、講堂・総務館耐震改修工事や 大学図書館システムの更新、文学部 1 号館(LA I-1) 改修工事、中高部第二体育館 1 階空調設備工事 などを計画的に実施しましたが、減価償却による資 産の減少の影響が大きく、有形固定資産の総額は減 少しています。

4,897

事業活動支出計 5,063 5,042

特定資産(63億89百万円、前年度比+38百万円) については、銀行預金、金銭信託、地方債等で運用 しています。退職給与引当金の減少に伴い、退職給 与引当特定資産は減少(△7百万円)、また、講堂・ 総務館耐震改修工事及び理学館・総務館美装化工事 費用のうち、補助金で賄えなかった自費対応分を岡 田山建築保存引当特定資産の取崩により補填しまし た。一方、教育振興会等による寄付金収入の第3号 基本金への組入額や、岡田山建築保存引当特定資産 への繰入額が多かったため、特定資産の総額は増加 しています。

その他の固定資産(6億47百万円、前年度比△51 百万円)については、繰上返済等による貸与奨学金

タム!	仅支計	L告書
貝並り	以又言	昇音

収入の部									
科 目	本年度 予算	本年度 決算(A)	前年度 決算(B)	増減 (A)-(B)					
学生生徒等納付金収入	4,115	4,114	4,131	△ 16					
手数料収入	98	107	102	4					
寄付金収入	122	124	109	14					
補助金収入	448	458	546	△ 87					
資産売却収入	0	0	37	△ 37					
付随事業・収益事業収入	61	59	76	△ 17					
受取利息・配当金収入	53	53	143	△ 89					
雑 収 入	214	219	111	107					
借入金等収入	-	_	_	_					
前受金収入	686	716	682	34					
その他の収入	77	140	124	15					
資金収入調整勘定	△ 855	△ 882	△ 784	△ 98					
前年度繰越支払資金	2,993	2,993	2,558	435					
収入の部合計	8,014	8,106	7,841	265					

支出の部									
科	目	本年度 予算	本年度 決算(A)	前年度 決算(B)	増減 (A)-(B)				
人件	費支出	3,157	3,170	3,052	117				
	足経費支出	1,213	1,198	1,117	81				
管理経	費支出	334	314	326	△ 12				
借入金等	F 利息支出	0	0	0	0				
借入金等	F返済支出	13	13	55	△ 42				
施設関	「係 支 出	60	62	57	4				
設備関	係 支 出	122	119	86	32				
資 産 運		67	109	92	16				
その他	の支出	197	198	245	△ 47				
資金支出	調整勘定	△ 109	△ 197	△ 186	△ 11				
翌年度繰	越支払資金	2,957	3,118	2,993	124				
支出の	部合計	8,014	8,106	7,841	265				
(参考)									
収入の部合計-1	前年度繰越支払資金	5,021	5,112	5,282	△ 170				
支出の部合計-	翌年度繰越支払資金	5,057	4,988	4,847	140				

残高の減少(△34百万円)や、減価償却によるソフ トウェアの減少(△16百万円)が資産減の主な要因 です。

【流動資産】33億50百万円(前年度比+3億1百万円) 未収入金(2億12百万円、前年度比+1億70百万 円)は、主に退職金財団からの交付金及び補助金の 期末未収入金で構成されています。今年度は理学 館・総務館美装化工事にかかる施設整備費補助金 (25百万円) 等の期末未収入金が計上されているほ か、長期勤続者の退職により退職金財団からの期末 未収入金が前年度よりも多く、未収入金は大幅増と なりました。また、資金収支計算書の記述のとお り、現金預金も増加しています。

(2) 負債の部

【固定負債】16億8百万円(前年度比△21百万円)

借入先は私立学校振興・共済事業団のみであり、 約定返済による短期借入金への振替により長期借入 金が減少(△13百万円)しています。割賦購入によ る長期未払金は、短期への振替により残高ゼロとな りました。退職給与引当金は人員構成の変動等に伴 い減少しています。

【流動負債】10億31百万円(前年度比+46百万円)

2019年4月の入学者数が増加したことにより、前受金が増加(+34百万円)したことが主な増加要因です。借入金の約定返済額に変動はなく、期末未払金の金額も前年度並みとなりました。

(3) 純資産の部

【基本金】174億94百万円(前年度比+1億80百万円) 第1号基本金は、保有する固定資産のうち教育の 用に供されるものや、教育の充実向上のために取得 した固定資産の価額を組み入れたものであり、2018 年度は、講堂・総務館耐震改修工事や図書館システムの更新などの資産取得、借入金の返済や前年度の 期末未払分を支払ったことにより組入額が増加(+ 1億40百万円)しました。第3号基本金は、奨学金などの教育研究活動に対して基金の運用果実をもって運営するために組み入れるもので、教育振興会等の寄付金の組入れにより増加(+40百万円)しました。

【繰越収支差額】△12億98百万円

(前年度比△82百万円)

事業活動収支計算書の当年度収支差額の累計額が 計上されており、長期的な収支バランスを表してい ます。

Ⅱ. 2019年度神戸女学院事業計画

1. 今後の運営方針及び2019年度事業計画

本学院の主な取組みのうち、特別予算を中心とした2019年度の主な事業計画の内容は以下のとおりです。

2019年度に実施される事業計画の策定にあたり、大学では以下の重点項目を定め、これらを踏まえた施策・全学的取組を優先し採択しました。

2019年度重点項目(番号:優先順位)					
1. 広報	4. リベラルアーツ教育の推進				
2. 学修環境の充実	5. 国際化の充実 (学生の意識と能力アップ、				
3. 社会連携の強化	英語教育の強化を含む)				

中高部では、中高部1号館体育室及びタルカット 記念館被服室の整備をおこなうなど、学修環境の充 実を図ります。

【広報】

- ・2017年度から実施してきたブランディング施策を 継続し、2019年度も交通広告を掲出します。
- ・大学ホームページのトップページの改修や K-Clip等の別サイトを大学ホームページに統合 することで、ユーザビリティの向上を図ります。 また、2本立てでの運用となっている大学ホーム ページサーバの OS をバージョンアップし、新 サーバに1本化することで、セキュリティ向上と コスト削減を図ります。
- ・2019年度も、研究室における食品や化粧品についての研究成果を基にして、企業と産学連携をおこない、本学にふさわしい大学ブランド商品化を図

貸借対照表 (単位:百万円)

資産の部								
科目	本年度末 (A)	前年度末 (B)	増減 (A)-(B)					
固定資産	15,485	15,663	△ 178					
有形固定資産	8,448	8,614	△ 166					
土地	1,340	1,340	0					
建 物	4,056	4,195	△ 138					
構 築 物	474	502						
教育研究用機器備品	494	509	△ 15					
管理用機器備品	30	26	3					
曹	2,050	2,036	14					
車。両	1	0	\triangle 0 2					
建設仮勘定		2						
特定資産	6,389	6,350	38					
第3号基本金引当特定資産	1,630	1,589	40					
退職給与引当特定資産	1,438	1,445	$ \triangle $ 7					
減価償却引当特定資産	3,136	3,136	0					
岡田山建築保存引当特定資産	184	178	5					
その他の固定資産	647	698						
電話加入権	3	3	0					
ソフトウェア	48	65	△ 16					
有価証券	406	406	0					
差入保証金出資金	3	3	0					
出資金	20	20	0					
貸与奨学金	162	197	\triangle 34					
	0 050	0 040	0					
流動資産	3,350	3,048	301					
現金預金	3,100	2,976	124					
修学旅行費預り資産	17	17	170					
未 収 入 金 前 払 金	212	41	170					
	20	13	6					
資産の部合計	18,835	18,712	123					

負債の部								
科 目	本年度末 (A)	前年度末 (B)	増減 (A)-(B)					
固定負債	1,608	1,630	△ 21					
長期借入金	170	183	△ 13					
長期 未払金	_	1	$ \triangle $ 1					
退職給与引当金	1,438	1,445	\triangle 7					
流動負債	1,031	984	46					
短 期 借 入 金	13	13	0					
	189	180	9					
前爱金	716	682	34					
預り金	94	91	2					
修学旅行費預り金	17	17	0					
負債の部合計	2,639	2,614	25					

純資産の部									
	科			目			本年度末 (A)	前年度末 (B)	増減 (A)-(B)
基本金							17,494	17,314	180
	第	1	号	基	本	金	15,510	15,370	140
	第	3	号	基	本	金	1,630	1,589	40
	第	4	号	基	本	金	354	354	0
繰越収	支差	額					△1,298	$\triangle 1,216$	△ 82
	翌年	下度	繰起	或収	支き	差額	△1,298	△1,216	△ 82
純資産	の部	合	計				16,195	16,097	98

負債及び純資産の部合計 18.835 18.712 123

- ります。新聞やメディアへの情報発信により、商品や大学、学科の認知度を上げるとともに、開発に関わった学生たちと一緒に一般の人や高校生に向けてアウトリーチをおこない、商品だけではなく、本学での研究活動についても幅広く発信していきます。
- ・備蓄水の整備として保存水を KC ブランド化し、 販売・イベント利用などで流通させ、有効活用し ます。広報機能だけでなく、保存期間経過後の廃 棄処分品の削減にも繋がります。

【学修環境の充実】

- ・2018年度からの継続事業として、ジュリア・ダッドレー記念館(JD館)中教室、エミリー・ブラウン記念館(EB館)中教室、デフォレスト記念館(D館)大教室の映像音響設備を更新します。JD館では教員から希望の多いスクリーンとホワイトボードの同時使用が可能となり、メディア有効活用により質の高い教育を実現していきます。D館では音響環境に留意し、音圧環境等も含むリスニングテストに適した環境へと整備します。
- ・入学式や卒業式など各種行事に活用されている動画配信装置のサーバ及びレコーダーを更新します。反転授業や教材としての動画活用など、授業面での利用も増えており、学生・教員により良い学修環境・研究環境を提供します。
- ・新館の蔵書の約80%を占める図書館新館地下2階にある電動式集密書架の制御装置を4年間かけて交換します。2019年度は製本雑誌収納書架1ヶ所を交換します。
- ・学生の健康上の配慮と更なる課外活動の促進を図るため、学生の要望にも応え、3ヶ年計画でクラブ室にエアコンを設置していきます。2019年度は岡田山ロッジから着手します。
- ・2021年度に予定しているネットワークシステムの リプレイスに向けて、現状の問題点の洗い出しと 最新の関連技術情報などの収集、次期システムの 要求仕様の作成の支援を受けます。当支援によ り、関連した最新技術を把握した上での次期シス テムの要件定義、業者選定や提案内容の適正な評 価を可能とし、次期システムの安定的な運用に繋 げます。
- ・オルガン専攻、履修者の増加に伴い、老朽化した 音楽学部1号館にある練習用オルガンのオーバー ホールを実施し、今後のオルガン専攻志望の学生 確保と礼拝等の円滑な運営に役立てます。
- ・環境汚染物質の測定機器である質量分析計付きガスクロマトグラフィー(GC/MS)を更新し、環境科学を履修する学生の環境汚染に対する基礎知識や新規的な技術の習得に繋げます。
- ・熱中症対策として、中高部1号館体育室の空調設備を更新します。
- ・中高部タルカット館の被服教室の老朽化に伴い、 収納棚の更新やコンセント設備工事、ミシン台・ ミシンケースの改造等を実施し、円滑に授業が進

められるよう整備します。

【社会連携の強化】

- ・2018年度から開始した「戦略的人生設計への試み」として英語を使用する企業への就職を考えるプログラムを継続して実施します。外資系金融企業での豊富な経験を持つ講師をコンサルタントとして迎え、メンタリングセッション、講演会、インターンシップなどを実施します。
- ・2019年度も「舞踊卒業公演」「舞踊年度公演」をおこないます。また、東京音楽大学との共通講座の開講やザルツブルグ音楽院のウェブ・レッスンのサポート等も継続して実施します。
- ・西宮浜活性化に関して西宮市と連携協定を結んでいる本大学では、2018年度から実習の中で街の活性化に取り組みはじめ、主軸となる「西宮浜アートによる町おこし」の一環として、神戸地区も含めたストリートアート巡り本を作成します。また、多様な西宮地区の活性化活動の理解とPRの強化を図るため、活動をまとめたパンフレットを作成します。

【国際化の充実】

- ・「国際化ビジョン」に従って国際交流事業を活発 化するための短期受入れに加え、2018年度より実 施している「日本語&日本文化集中プログラム」 (1クール4~5週間)を継続し、日本語授業数の 大幅拡充により、交換留学制度の安定的な運用 と、在学生のキャンパス内における国際交流・国 際理解を深める機会を拡大します。
- ・派遣留学に必要な英語スコア(TOEFL-iBT、IELTS (アイエルツ)等)を取得するための課外補 習講座を2019年度も開講します。また、IELTS 学 内受験時の受験料一部補助(1万円/人)も継続 し、派遣留学を含めた留学者数の増加を図ります。
- ・2017年度からの継続事業として、大学1年生の後期、GE161(2)履修者全員にOsaka English Village (体験型英語教育施設)への参加を義務づけ、英語学習のモチベーションアップを目指します。また、「英語手帳」を使った学習も継続します。
- ・2年生後期~4年生の全学科学生を対象に IPTOEIC (L/R) を実施し、受験料の50%を補助して TOEIC を勉強するモチベーション維持とスコアアップを支援します。また、英語能力の高い学生の中で一定の受験希望がある TOEIC (S/W)テストについても受験料の50%を補助します。
- ・TOEIC 講座受講料の50%及びテキスト代を大学で負担し、意欲のある学生の受講を推進することで、さらなるスコアアップを支援します。
- ・「共通英語教育研究センター活動報告書 Vol. 2」を発行し、同センターの立ち上げ期(2年間)の次の発展期(4年間)の活動をまとめることにより、次の新たなステップに繋げるための検証をおこないます。さらに、全国の高校・大学に同報告書を配布し、本学独自の英語教育・成果をアピールすることにより、受験生確保に繋げます。

- ・初年度学生対象の英語コミュニケーション能力強 化短期集中プログラムを夏期休暇期間中に開催 し、意欲等に応じて選択可能なA(海外で2週 間)、B(国内で1週間)のプログラム受講補助を おこないます。両者とも、英語プレゼンテーショ ンを専門に教えるネイティブスピーカーによる集 中的演習を中核に据えており、Aは1割を補助、 Bは半額を補助します。当プログラムの成果を、 初年度英語コミュニケーション強化プログラム提 供のためのパイロットプログラムとして活用しま す。
- ・「遠隔同時会議・通訳システム」を継続活用することにより、海外とライブで双方向的な授業や会議を展開します。学生の国際感覚や語学力の向上、遠隔地との会議の簡易化を図ります。

【その他】

〈セキュリティ〉

・2019年度は運用等ソフト面での強化を図ります。 セキュリティの専門家を活用し、職員、中高部教 員、大学教員、警備員をメンバーとしたプロジェ クト新体制を構築します。セキュリティに対する 学内の機運醸成のため、教職員、学生生徒、関連 業者に対するプロモーション活動をおこなうとと もに、学内の運用を定着させ、鍵管理規程や各種 マニュアルを制定、整備することでルールを明文 化します。

〈管理〉

- ・重要文化財各棟で経年による外壁等の汚れや損傷が見られるため、保存を目的として、2019年度は図書館、文学館及び中高部1号館において、外壁の洗浄と各部の補修等をおこないます。(文化庁補助対象事業)
- ・創立150周年に向けたキャンパス再整備計画を推進するために必要となる基礎資料の作成をおこないます。2018年度に実施したキャンパスマスタープラン検討資料作成に引き続き、2019年度には西門バリアフリー整備等についての検討を進めます。
- ・中高部1号館の屋上防水機能が損なわれ、台風等 の豪雨時に漏水による被害が深刻化するなど経年 劣化している防水層の全面改修をおこない、耐久 性の向上を図ります。
- ・従来、講堂天井のスポットライトを手動で設置していましたが、安全性への配慮や、光天井の蛍光灯ベース照明のLED化や意匠面も考慮した形で講堂光天井照明改修工事をおこないます。
- ・学生アンケート等の要望を受け、大学では音楽学部1号館2階及びオルチン館1階のトイレの改修、中高部ではタルカット記念館の生徒用・教職員用のトイレの改修をおこないます。
- ・老朽化した受水槽及び入水層から給水管に圧送するポンプを更新し、基幹設備の予防保全につとめます。
- ・埋設環境により腐食によるガス漏れが発生する可 能性がある古いタイプのガス管(白ガス管)は、国

- が定めた計画に基づき、2020年までに保安上重要な 建物について樹脂製のガス管に更新する必要があ るため、2019年度中に改修工事を完了させます。
- ・2020年1月の Windows 7 サポート終了に伴い、 Windows 10 へのアップグレードが必要となるため、スケールメリットによるコストダウンとセキュリティ対策の観点から、標準機能のパソコンを一括購入します。
- ・キャンパスの土地建物や施設設備に関わる情報の 信頼性を高めるため、2019年度は測量事務所に協 力を仰ぎながら管理資料の整備や登記確認等を進 め、本学敷地の境界線について整理します。
- ・旅費規程の見直し作業を継続して実施し、旅費関連事務の標準化を図ります。将来的には旅費精算システムを導入し、事務の効率化に繋げていきます。

2 2019年度予算書

2019年度事業活動収支予算書の概要は以下のとおりです。

事業活動収支予算書 (単位:百万円)

			科		目		金	額
		学生	主生	徒等	納尓	金	4	106
	収事	手		数		料		97
	入業			付		金		61
教	の活		常費	事等?	補助	」金		429
音	部動		随	事業	笔 収	入		69
活		雑	J. Y.	収	il T	人	4	88
動収			育石	5動!				851
支	支事	人数	*	件 研 第		費費		092
	出業		月		に 経	専	1	421 329
	の店		収		三額			323
	部動			5動			4	842
				動収			r	9
	収事			<u></u> 息・				41
払	入業			教育記				_
答	の活	北/-	マ 江	動外	ılızı z	≑ 1.		41
教育活	部動							41
動	支事			金等				0
外収	出業	(to	(他の)	教育沿	動外	支出		_
支	の活部動	教	育活	動外	支出	計		0
_	마케	おって	5洋:	動外山	n±±	白姑		40
				<u> </u>				49
	収事			売 去		額		43
	以争 入業	具 <i>そ (</i>	圧 ひ他	元の特	別山	100		53
	の活							
特	部動	特	別	収	入	計		53
別	支事	資	産	処分	差	額		9
収支	出業	その	の他	の特	別ま	え出		_
	の活	特	別	支	出	計		9
	部動							
11.				収支				44
	本金組							94
	本鱼			類	合	計		113
当		皮	収	支	走	額	\triangle	18
(多	考)	17.	毛.	1177	7	1=		0.46
	業	店	虭	収	人	計		946

事 業 活 動 支 出 計 4.851

史料室の窓(49)

創立者記念日110周年に思う

神戸女学院史料室 佐伯 裕加恵

神戸女学院には創立者記念日というユニークな記念日があり、創立者で初代校長であった Miss Eliza Talcott (1836-1911) を記念しています。では先生の何を記念しているのでしょうか。実は、すでにお亡くなりになって一世紀以上、歴史上の人物である先生の誕生日を覚えて、毎年祝っているのです。

しかし、この記念日は単に創立者の誕生祝をする ための日ではありません。ではどうしてわざわざこ んな日を設けたのでしょうか。ここに、神戸女学院 の神戸女学院たる「らしさ」が存在します。

どの学校も学校の始まりの日、創立記念日を大切にしています。ところが神戸女学院では、創立者記念日が先に設けられて、しばらくの間、その日を創立記念日と呼んでいたという歴史があります。創立者のお誕生日と学校の始まり、これが一緒になっていた理由は…。

創立者記念日が始まったのは1909年のことです (ですから今年は記念日制定110周年)。学校では折ある ごとに創立記念式をおこなってはいましたが、その 日は10月12日ではありませんでした(記念日としての 意識はなかったようです)。当時学校は女子のための 高等教育に力を入れ、1908年にそれまで3年制だっ た高等科(当時は大学教育部門をこう呼んでいました) を4年制にすることを認められました。この時代、 女子に大学は認められていませんでした。その代わ りに、大学と同等の力があると認められた学校を専 門学校(現在でいうと私立大学に相当します)とすると いう「専門学校令」という法令が出されていました。 神戸女学院もこの法令で大学教育を認可してもらお うと申請を出していました。正式に認可が下りたの は1909年10月のことでしたが、春の段階で既に大丈 夫という感触があったのでしょう。時の院長 Miss Susan Annette Searle が創立記念日を定めお祝いす ることにしました。このことを伝える同窓会誌『め ぐみ』には「五月二十二日今回最初の校長タルカツ ト氏の誕生日に相當するを以てこの日を創立記念日 と定め毎年祝會を開くことに決定せらる」(1909年12 月20日発行第49号)と書かれています。

創立者の誕生日を学校の創立記念日とする――この発想は私たちにはおそらくありません。宣教師ならではだったように思えます。まず、学校が発展し目標としていた大学教育にめどがついたことを祝いたいと考えたであろうソール先生。学校が順調に発



Miss Eliza Talcott (1836-1911)

展できたのはこれまで学校に関わった多くの人々のおかげであると思ったことでしょう。そしてこの学校が誕生したのは創立者がいたから、神様が創立者をこの地に遣わしてくださったから。であるなら、そもそもの誕生から祝いましょう、という具合に…。

創立者記念日はその後、1915年創立40周年を迎えるに当たり、本来の創立の日の10月12日に定められるまで6年間、創立記念日として守られました。そしてやはりこれも神戸女学院らしいと思えるのは、5月22日を創立者記念日として残したということなのです。

この発想の柔軟さ、心の豊かさが神戸女学院の「愛神愛隣」の精神を表わしていると思います。第1回創立者記念日の翌日、ソール先生は奨励でタルカット先生の話をしました。創立者の先生方は神様と聖書のことを話す家として学校を創立した。自分は来日してからタルカット先生とよく話をしたが、先生は道を歩きながらでも実に良い奨励を与える。自分を忘れて人を助け、人の良いところを見る。これは先生の謙遜を表わしている。そして感心したのは、決して急がないということである。用事があっても話をするときには落ち着いて話をする。先生がこれをいうこともあるが、その一方で、こを忘れて人を思う精神が働いて居るのだと思わずにはいられない、と(前掲書)。

<キャンパスお気に入りの場所>

まわりみち --アーチをくぐり木立の中へ--

デフォレスト館から総務館へ、書類と伝票を持って1日1回必ず往復します。急ぐときは当然最短ルートを考え、早足で文学館を通り抜けます。けれど特に差し迫っていない平常時は、小さなまわりみちを選ぶことがあります。外気がまだ冷たくても、膨らみはじめた桜のつぼみが気になって外の小径を歩いたり、アーチ窓から差し込む光に惹かれて文学館の途中の扉から外に出たり。

総務館から中庭へ出る扉の開く重々しい音、暗い 屋内から一歩進んで眩しい光を浴びる開放感。見慣 れたキャンパスの日常風景は、美術館で気に入った 絵にいつまでも見入ってしまうように、何度くり返 し見ても飽きることがありません。

ソフトフォーカスで撮ってみたいな…と考えつつ 上ばかり見ながら歩いて躓いても、銀杏の実を踏ん づけて靴にくっついても、それすらも楽しくて。新 しい建物もヴォーリズ建築に通じるところがあっ て、どこか懐かしく思えます。何人ものかたが校舎 と自然の美しさを語られた後なので、違う場所(部 室とか)も考えましたが、それでも、やはり、私もま た同じでした。"校舎が学びの比喩になっている" ということを実感し、ここで過ごすと守られ癒され ている気がします。

日々の雑事にまぎれ学問と向き合うことのない毎 日を送っていても、様々な気づきのきっかけが身近 にあり、日常業務をしながらでさえそのことを思い 起こさせてくれる、その瞬間が好きで、ささやかな まわりみちを歩きます。

(大学事務長室)



自然のステンドグラス

神戸女学院の美しい樹々

私のキャンパスお気に入りの場所は、講堂とグラウンドの間にある桜、藤棚、大銀杏などの樹々のあるエリアです。四季折々の美しい景色に癒されます。

春の朝、谷門からの坂道をのぼりきり、息を整えながらグラウンドを第一体育館の方向に横切っていくと、レトロでカラフルな屋根の建物をバックに、薄ピンクの大きな桜が咲き誇り、青い空に映えてすがすがしい気分になります。桜の花びらが舞いはじめると一面がピンクに染まり、西の空の茜色と桜の樹がコラボする夕方の時間は本当に綺麗です。

新年度開始の忙しさに一息ついたころ、藤棚に濃い紫色と真っ白な花房を見ることができます。緑色の葉やツルとのコントラストがとても優雅です。

秋になると大きな銀杏の樹が少しずつ色づき、見事な黄金の世界を見せてくれ、社交館側からは金木犀の香りが漂ってきます。クリスマスが近くなると、ツリーがライトアップされ神聖な気持ちになります。

保健室の窓からはこれらの景色を季節ごとに見る ことができ、贅沢な環境で働かせてもらっていると 感謝しております。

先日、中庭の溝で可憐なスミレが咲いていました。

日々発見する神戸女学院の美しい自然に癒され、 まだ知らない学内の美しい景色に出会えるのを楽し みにしている3回目の春です。

(大学保健室)



満開の桜

大学報告

KOBE "にさんがろく"「ジュレdeかまぼこ」で 審査員特別賞受賞しました

"にさんがろく"プロジェクトは神戸市の農水産物を素材に生産者と学生と企業が共同し、新たなものづくりを進めるプロジェクトです。2018年度は、高岡ゼミの3年生有志5人が参加しました。

今回は、丸八蒲鉾×須磨水産×神戸女学院大学で商品開発をおこない、若者向けのおしゃれなかまぼこ「ジュレ de かまぼこ」を開発しました。ふわふわのかまぼこの中に伸びるチーズを忍ばせ、海苔の風味が新鮮なジュレをかけたカップに入ったかまぼこです。若者たちに対し、かまぼこや海苔などのあまり馴染みのない食品に目を向けてほしいと思い考案しました。生産者の方や企業さんとの話し合い、試作を重ね、自分たちで納得できるまで試行錯誤を繰り返しました。

成果発表の日は、商品のコンセプトや特徴を審査 員の前でプレゼンし、大量のサンプルを準備し試食 もおこないました。当日の学生たちは大変緊張して いましたが、後悔しないようにベストを尽くそうと いう意気込みが感じられました。その努力の甲斐も あり、今回は「審査員特別賞」を受賞することがで きました。

学生たちはこのプロジェクトに参加し、多様な意見を聞くこと、それを一つにまとめていく難しさや、チームとして協力していく連帯感、思いを形にできた時の達成感を味わうことができたと思います。教室の中だけでは決してできない実践的な学びができたことは、学生たちのこれからの人生にプラスの効果を与えることでしょう。

(環境・バイオサイエンス学科教授 高岡 素子)



審查員特別賞受賞

門戸厄神一もっと躍進

門戸厄神駅から大学までの道のり。私たちはついつい素通りしてしまい、門戸厄神のことを何も知らないままではないでしょうか。「神戸女学院生にも門戸厄神の良さを知ってもらい、もっとこの街を好きになってもらおう。」―そんな思いから、3年前、私たちは地域づくりリーダー養成プログラムに門戸班を結成しました。

最初は、街の人の輪にうまく入れず、問題山積でしたが、住民のみなさんの「井戸端会議」に出席して意見交換したり、お祭りのお手伝いをするなどの活動や、一軒ずつ門戸厄神の店を訪ねるという地道な活動を続けてきたことで、地域の方々とも親しくなり、私たちの活動の手助けもしていただけるようになりました。

そんな中、2018年度の門戸班は、最初にコラボパン作りを手がけました。門戸厄神駅周辺の2つのパン屋さんにお願いし、試行錯誤の末、学院の校章をかたどった「女学院パン」を完成させ、お店やバザーで販売しました。さらに、門戸厄神のお店を紹介するパンフレットも作成しました。twitterやInstagramと連携し、イラストレーターの方のご協力も得て、わかりやすい紹介冊子「MACHIARUKI mondo」ができました。完成品は、周辺のお店にも置いていただき、「すごく良くできている。」という感謝の言葉をいただいています。3年もかかって築いてきた神戸女学院大学と門戸厄神の方々との絆が、この活動の宝物。門戸厄神をもっと好きになってもらえるようにこれからもアクティブな活動を続けていきたいと思います。

(人間科学部 ESD 推進室)



MACHIARUKI mondo と2018年度の門戸班

Flute Outreach Project

Flute Orchestras are very popular the world over and Japan is no exception having a rich tradition of them. I remember with fondness as a child attending a concert of the renowned "Tokyo Flute Ensemble" when they came to Sydney, Australia in the 80's.

Ensemble playing is extremely important as it requires the player communicate ideas with music which is the main skill that students will bring to the workplace when they graduate. For this reason I place a high emphasis on ensemble playing and chamber music.

Since starting at Kobe College I have held a weekly flute ensemble class which has now expanded and includes an extra curricula ensemble called the "Kobe College Flute Family" (KCFF) comprising of past and present students of K.C.

The "KCFF" held their debut concert on the 3rd of October at the Koto Hall in Nishinomiya to great success.

In the weekly University flute ensemble class we rehearse ensemble playing techniques and repertoire culminating in presenting a piece at the Annual Kobe College "Summer Concert" as well as various outreach projects.

One such outreach project took place at the 東リ いたみホール lobby on the 23rd of January and comprised a flute quartet.

The students prepared a concert of popular flute quartet music and took turns in introducing and explaining the pieces to the audience.

The audience was very receptive and encouraging and their reaction really inspired the students who in turn gave a very fine performance.

This outreach program was an invaluable experience for the students as they gained first hand experience on how to program, promote and rehearse for a concert outside of the university.

A big "Bravo" to the 4 students for not only their exceptional performance but for the way they so professionally represented Kobe College.

(音楽学科准教授 Xavier LUCK)





リベラルアーツ&サイエンスプログラム

神戸女学院大学では、所属学科とは異なる学科の 専門科目を学べるリベラルアーツ&サイエンスプログラム(2017年度よりマイナープログラム)を、より自由に、自ら学びを作り上げる「リベラルアーツ&サイエンス教育」の一環としておこなっています。

プログラムでは、英文学科、総合文化学科、音楽学科、心理・行動科学科、環境・バイオサイエンス学科、女性学インスティチュートの5学科、1機関が、それぞれの学問領域を19分野に分けて専門科目を提供します。学生は興味を持った他学科・機関の分野を選んで20単位を履修することにより、「第2の専門」としてまとまった学修をすることが可能です。プログラムの履修者は、音楽学科の個人レッスンや環境・バイオサイエンス学科の実験科目など、通常は他学科学生には開放されない専門科目を学ぶことができます。また体系的な学修を継続できるよう、各分野の教員がアドバイザーとなり、履修の手助けもおこなっています。

2018年度は総合文化学科の社会学・メディア分野、音楽学科の器楽分野、ピアノ分野、環境・バイオサイエンス学科の環境・生態科学分野を履修した5名の学生が、卒業式の後に修了式を迎えました。卒業必要単位以上の履修をしなくてはならないために負担は増えますが、これからも意欲のある皆さんに参加してもらい、大学の教育理念を体現する学生として巣立ってもらえればと思っています。

(2018年度副学長·教務部長 西田 昌司)



プログラム修了式にて修了者と学長、副学長

「面倒見がよい大学ランキング」にランクイン

株式会社東洋経済新報社が運営する「東洋経済 ONLINE」は、「面倒見がよい大学ランキング」を発表し(2019年2月8日付け)、本学は33位にランクインしました(関西の私立大学では5位、全国の女子大学でも5位)。本ランキングは、進学情報会社である株式会社大学通信が、全国の進学校約2000校の進路指導教諭に対して、「面倒見がよい大学はどこか」というアンケートをおこない(835校が回答)、その回答をもとに作成したものです。

「面倒見がよい」ということは、本学が掲げる少人数教育に通じるものがあります。そこで、本学の少人数教育を証明するデータはないかと調べてみました。2018年度後期に実施した「授業評価アンケート」の集計結果から、登録学生数30名以下の科目が全体の約75%を占めることがわかりました。さらに、登録学生数が10名以下の科目は約25%を占め、少人数教育がデータの上である程度証明されているかと思います。

「面倒見がよい」というのは、学生と教職員の距離の近さも重要な要素です。このことを証明するデータは残念ながら見つかりませんでしたが、広報担当として広報誌の取材や各種インタビューで学生や卒業生の声を聞いていると、本学のよさとして「先生との距離の近さ」や「先生の親しみやすさ」を挙げ、具体的なエピソードを語ってくれる学生・卒業生が多く、このことからも本学の「面倒見のよさ」を垣間見ることができます。

(学長室)



教室のサイズも少人数教育の証し

第11回臨床心理士による 地域実践を考えるシンポジウム

2019年3月2日(土)、西宮市大学交流センターに て、本学の臨床心理士や公認心理師養成のための実 習機関である心理相談室主催のシンポジウム「遊び とプレイセラピー~遊んでるだけでどうしてよくな るの?~|がおこなわれました。副題は実際に来談 されるお子さんのお母さん方からよくお聞きする疑 問であり、今回はその疑問にお答えするような形 で、プレイセラピー(=遊戯療法)や遊び自体のも つ治療性についての理解を少しでも深めていただけ たらというのがシンポジウムの趣旨でした。まず本 学の須藤准教授がプレイセラピーの基本的な理論と 実際を説明され、次に國吉教授が心理相談室でも実 践されている PCIT (親子相互交流療法) をご紹介 され、最後に石谷教授が長年取り組んでおられる SSN (人形遊び技法) をご紹介されました。その後、 指定討論者としてお招きした奈良女子大学の黒川嘉 子准教授にそれぞれの講演についてコメントいただ き、また詩などを題材に子どもの心の豊かさやそれ を感じとる大人の感性の大切さをお話しいただきま した。なお、司会は小林哲郎教授にしていただきま した。参加された方は72名(内スタッフ21名)で、 心理や福祉の専門家や学生のほか、保護者の方々も 多数いらっしゃいました。専門的な内容を分かりや すい言葉でお伝えできたかと思いますし、最後はフ ロア全体の各々の子どもの心が賦活されるような、 豊かな学びと癒しの時間を共有できたのではないか と思います。

(心理相談室長 鶴田 英也)



後半のディスカッションの場面

カウンセリングルームシンポジウム 「多様な性を生きるために

カウンセリングルームでは去る3月15日に「多様 な性を生きるために~マイノリティの生活設計~| と題して、シンポジウムをおこなった。講師である 大阪市立大学准教授の新ヶ江章友先生によれば、そ もそも性別とは自分の性自認や好きになる対象の性 別、自分の性をどう表現し振舞うか、なども含めて 考えるべきもので、必ずしも性染色体と一致すると は限らない。男女の性役割も文化的に作られたもの であり、ジェンダーは社会や文化が変われば変わ る。このような認識から最近は SOGI (Sexual Orientation and Gender Identity) という概念が用い られるようになっているという。性別は2種類だけ ではないのだ。世界的にも同性婚が法的に認められ ている国が増えている一方で、日本はまだパート ナーシップ制度が一部の自治体で認められているに すぎない。しかし大学として最も重要なのは学生に ジェンダーやセクシュアリティに関する授業を提供 し、正しい知識を伝えることであるという。すべて の人がまず SOGI の視点から自分のセクシュアリ ティと向き合わなければマイノリティを理解するこ ともできないのである。話題を提供した総合文化学 科の横田恵子教授も交え活発な意見交換もおこなわ れ、充実した時間であった。

(カウンセリングルーム)



シンポジウムの様子

近畿初 "PCITイニシャルワークショップ" 開催!

PCIT (親子相互交流療法)とは親子遊び場面へのコーチングによる心理療法で子どもの問題行動改善や虐待防止に高い効果を上げています。今年3月、近畿初の実践者養成講座を神戸女学院大学で開催することができました(主催:日本 PCIT 研修センター、共催:PCIT-Japan・神戸女学院大学)。講師に加茂登志子日本 PCIT 研修センター長 (PCIT マスタートレーナー、精神科医)を迎え、國吉(本学教授、PCIT L1トレーナー、公認心理師、臨床心理士)がアシスタントトレーナーを担当しました。本学心理相談室で筆者とともに PCIT に関わっている須藤准教授、研究生、大学院前期課程の学生たちにもボランティアスタッフとしてサポートしていただきました。

待望の近畿での開催に沖縄、広島からも心理士、 医師、大学教授など高度な対人援助専門家が集まり、実際の親子へのライブコーチングなど実践的体験的に PCIT のエッセンスを学ばれました。今回は 國吉が代表を務める PCIT 関西研究会とのジョイント事例検討会も企画され、関西地区の PCITers を 含め総勢26名が豊かな学びを共有することができま した。

本学人間科学研究科では今年からこの PCIT 公認の実践者養成を組み込んだ授業「心理療法特論」を開始します。これは日本の大学で初めての画期的な試みです!近隣大学でも PCIT 実践がはじまりましたが、本学は PCIT の関西の活動拠点としてリードしつつこれまで培った知見を活かし、より質の高い心理士の育成に注力したいと考えています。

(人間科学研究科長 國吉 知子)



ワークショップ小グループ実習風景

産学連携知的財産アドバイザーの 着任ご挨拶

本学の知的財産活動をご支援するために、国の機関から4月に着任いたしました。企業での知的財産管理の経験を生かし、全力で取り組みます。

国は2002年から国家戦略として「知財立国」を目指し、知的財産の創出、保護と活用に取り組んでおり、大学の知財力の向上もまた望まれています。

大学の研究室にはすばらしいアイデアや発明が潜在しています。これらを産学連携により企業と共に商品化し、社会に役立つ成果として完成させると共に、この成果を特許権として結実いたします。

さらに本学の知的財産の基盤を確立しその向上を 図るため、特許のみならず契約、著作権等知的財産 全般にわたるご相談もお受けいたしますので、いつ でもご遠慮なくお知らせください。

(知財担当顧問)



大学春季宗教強調日礼拝

創立者イライザ・タルカット先生の誕生日を含む 1週間は愛校週間としてまもり、創立者の思いを確 認する時としています。

チャペルアワーでは、卒業生である職員 2 名からお話を伺うこともできました。タルカット先生の誕生日である 5 月22日(水)には、教職員、同窓生、学生の計17名で、神戸再度山にある先生の墓前にて礼拝をおこないました。その後、山本通にあった神戸女学院発祥の地である神港学園にも訪問し、当時の本学に思いを馳せるひと時となりました。

例年、神戸女学院大学では愛校週間のアッセンブリアワーである金曜日に、「春季宗教強調日礼拝(創立者記念日礼拝)」をまもっています。今年度も、飯謙院長より「創立者イライザ・タルカット先生(1836-1911)一神戸女学院建学の祈り一」と題して、ご講演いただきました。

タルカット家の歴史、来日前の先生の歩みや神戸 女学院が創立された経緯など、スライドを用いて、 丁寧にご説明くださいました。タルカット先生は会 衆派の家に生まれ育ち、ミス・ポーターズ・スクー ルで学び、教師の道を歩まれました。しかし、ご親 族のご不幸や看病により職を辞すなど、一本道を進 まれたわけではありませんでした。少女時代に培わ れた信仰、そして、その信仰に基づいて、必要とさ れるところに向かい、真摯に人と向き合われる方で した。自分のためではなく隣人の喜びのために、自 らのタラントン(才能、たまもの)を尽くして行動 され、日本で生涯を閉じられました。このお人柄 が、そのまま本学の学風につながっていることを改 めて感じさせられました。

今年度も、建学の精神について良い学びの時をも つことができ、深く感謝いたします。タルカット先 生の志を心に刻んで、これからの日々を過ごしてま いりたいと思います。

(チャプレン室)

2018年度 神戸女学院大学図書館報告

- 1. 統計
 - 蔵書数

	2018年度受入	2018年度末現在
和書	2,276冊	262,483∰
洋書	439∰	172,094∰
合計	2,715₩	434,577∰
AV 資料	7点	4,154点

• 2018年度貸出状況

 学生
 教職員
 外来者

 37,216冊
 4,725冊
 1,530冊

• 2018年度相互利用

	又献稷与	図書貨借	閲覧	照会
依頼	508件	98件	18件	0件
受付	383件	32件	14件	3件

- 2. 受入図書
 - 教育資料費による購入図書

"『民法論綱』 抄録" ほか 計67タイトル

• 客贈図書

『昭和天皇実録』ほか 計187冊 ・寄贈視聴覚資料 計1点

- 3. その他
 - クラス別ガイダンス 27回実施

(図書館課長)

2019年度 大学・大学院入学試験結果概要

●大 学

• , ,			
学 部	学 科	入学定員	入学者数
文学部	英文学科	150	158
大子 即	総合文化学科	200	226
音楽学部	音楽学科	46	50
人間科学部	心理・行動科学科	90	108
八间件子印	環境・バイオサイエンス学科	80	103
	合 計	566	645

●大 学〔編入学(3年次)〕

学 部	学 科	入学定員	入学者数
音楽学部	音楽学科	1	2

◆大学院(修士課程・博士前期課程)

研究科	専 攻	入学定員	入学者数
文学研究科	英文学専攻	13	3
又字研究科	比較文化学専攻	5	1
人間科学研究科	人間科学専攻	10	13
音楽研究科	音楽芸術表現専攻	7	7
	合 計	35	24

●大学院(博士後期課程)

研究科	専 攻	入学定員	入学者数
文学研究科	英文学専攻	2	0
文字 研	比較文化学専攻	2	2
人間科学研究科	人間科学専攻	2	2
	合 計	6	4

2019年度 在籍学生数

(2019年5月1日現在)

●大 学

学部· 学科		文 学 部		音楽 人間科学部				스타	
学年		英文 学科	総合文化 学 科	小計	音楽	心理·行動科学科	環境·バイオ サエンス学科	小計	合計
1年	19000	158	226	384	50	108	103	211	645
2年	18000	169	236	405	25	110	79	189	619
3年	17000	177	236	413	45	114	96	210	668
4年	16000	170	229	399	48	99	82	181	628
	15000	15	16	31	1	7	1	8	40
	14000	1	2	3	1	1	2	3	7
	13000	1	0	1	0	1	0	1	2
	12000	1	0	1	0	0	0	0	1
合	計	692	945	1637	170	440	363	803	2610

●大学院修士課程・博士前期課程

	O) (3 13015 TB) (1 (T1) (3 (T1) (
研究科 専攻		文学研究科			人間科学 研 究 科	音 楽研究科	合 計		
学年		英文学	比較文化学	小 計	人間科学	音楽芸術表 現	П П		
1年	1900	3	1	4	13	7	24		
2年	1800	4	1	5	7	4	16		
	1700	2	2	4	0	1	5		
	1600	1	0	1	0	0	1		
	1500	0	0	0	0	0	0		
	1400	0	0	0	0	0	0		
合	計	10	4	14	20	12	46		

●科目等履修生

学 部	6
大学院	0

●聴講生

_		
	学 部	4
	大学院	5

●大学院博士後期課程

- · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·								
	研究科・ 専攻	7	文学研究和	人間科学 研 究 科	合 計			
学年		英文学	比較文化学	小 計	人間科学	ы ы		
1年	1900	0	2	2	2	4		
2年	1800	0	0	0	2	2		
3年	1700	1	0	1	0	1		
	1600	0	0	0	0	0		
	1500	0	0	0	0	0		
	1400	0	0	0	0	0		
合	計	1	2	3	4	7		

				就職決定率	進学者数	就職率	
学	科	卒業者数	就職希望者数	就職決定者数	就職決定者/ 就職希望者	大学院	就職決定者/ (卒業者-院進学者)
英	文	169	157	156	99.4%	3	94.0%
総合	文化	211	199	196	98.5%	4	94.7%
音	楽	47	22	22	100.0%	7	55.0%
心理	·行動	86	63	61	96.8%	16	87.1%
環境・バイン	オサイエンス	88	74	74	100.0%	8	92.5%
合	計	601	515	509	98.8%	38	90.4%

2018年度 就職状況報告

(2019年4月末現在)

2018年度も経団連による「就活ルール」が踏襲され、3月1日に会社説明会など採用広報活動が解禁、6月1日に面接など採用選考活動開始、10月1日に正式な「内定」というスケジュールで進行しました。学生にとっても大きな混乱もなくスムーズに就職活動がスタートしました。

今年度も企業の採用意欲は高く、学生にとって「売り手市場」に変わりなく就職環境は 極めて良好だったといえます。

2018年度卒業生の就職率(就職希望者に対する就職者の割合)は98.8%で、0.2ポイント落ちましたが前年度並みとなりました。

就職状況/規模別では大企業(従業員1000人以上)への就職割合については48.3%と昨年度より0.9ポイント上昇、中企業(従業員300名以上1000名未満)は23.2%で2.6ポイント下落、小企業(従業員300名未満)は微増となり、昨年度と大きな変化は見られませんでした。

産業別では、金融・保険業が17.3%と前年を6.9ポイント下回りました。このことはメガバンクの採用減が新聞等で報道されたことにより、金融志望者が早期に他業界・他企業に流れたと考えられます。製造業は14.7%で前年を2.1ポイント上回り、次いで卸売業・小売業、サービス業、運輸業、情報通信業が続いています。今年の特徴は航空が客室乗務職、地上職併せて37名で昨年(27名)を大幅に上回りました。

以上の結果は、学生が各自の進路についてしっかり考え、その目標に向かって最後まで あきらめずに取り組んだ結果だといえます。

2018年10月に経団連が現行の「就活ルール」を廃止、2019年4月に2022年卒から通年採用に移行する方針を発表、と大学生を取り巻く就職環境は大きく変わりつつあります。

キャリアセンターでは企業の人事担当者、就職情報提供企業などから情報収集をおこない、学生が戸惑うことなく安心して就職活動に取り組めるようつとめてまいります。

(キャリアセンター課長)

主な就職先

建設業

大和ハウス工業/熊谷組/積水ハウス

製造業

あみだ池大黒/アルインコ/伊藤園/ウッドワン/オリエンタルモーター/オンワード樫山/川本産業/極東開発工業/KBセーレン/シーボン/指月電機/シュゼット/ストライプインターナショナル/住友電気工業/TASAKI/田辺三菱製薬/チャロット/ディーエイチシー/デンヨー/東芝エレベータ/日本圧着端子製造/ハイレックスコーポレーション/バンドー化学/フォクシー/富士シート/ポッカサッポロフード&ビバレッジ/桃谷順天館/ヤンマー/ライオン事務器/ロックペイント

ガス業

大阪ガス

情報通信業

日本放送協会 (NHK)/青森放送/神戸新聞社/大 塚商会/東京コンピュータサービス/トランスコス モス/富士ソフト

運輸業、郵便業

全日本空輸/ANA ウイングス/ANA エアポート サービス/ANA 大阪空港/ANA 関西空港/ANA 中部空港/日本航空/ジェイエア/JAL スカイ/ JAL スカイ大阪/K スカイ/エアアジア・ジャパン /スカイマーク/京阪電気鉄道/ジェイアール東海 パッセンジャーズ/西日本旅客鉄道/上組/後藤回 漕店/佐川急便/日本交通/日本通運/ヤマト運輸

卸壳業、小売業

アズワン/大月真珠/サンセイテクノス/資生堂ジャパン/第一実業/ダイワボウ情報システム/トラスコ中山/はるやま商事/ホンダカーズ大阪/村中医療器/モリタ/ヤナセ/山善/リョーサン/ルイ・ヴィトン ジャパン/ロクシタンジャポン

金融業、保険業

三菱 UFJ 銀行/ゆうちょ銀行/日本マスタートラスト信託銀行/三井住友信託銀行/北陸銀行/関西みらい銀行/但馬銀行/みなと銀行/南都銀行/紀陽銀行/山陰合同銀行/広島銀行/阿波銀行/四国銀行/鹿児島銀行/信金中央金庫/尼崎信用金庫/但陽信用金庫/播州信用金庫/広島信用金庫/SMBC日興証券/大和証券/野村證券/みずほ証券/あいおいニッセイ同和損害保険/東京海上日動火災保険/東京海上日動安心110番/三井住友海上火災保険/住友生命保険/第一生命保険/大同生命保険/大樹生命保険/日本生命保険/明治安田生命保険/兵庫六甲農業協同組合/キュービタス/三井住友トラスト・ビジネスサービス

不動産業

住友不動産販売/阪急阪神ビルマネジメント/三井 住友トラスト不動産/三井不動産ビルマネジメント /三井不動産リアルティ/三菱 UFJ 不動産販売

宿泊業

ウェスティンホテル大阪/共立メンテナンス/近 鉄・都ホテルズ/神戸ポートピアホテル/ヒルトン 大阪/星野リゾートグループ

医療、福祉

社会保険診療報酬支払基金/独立行政法人国立病院 機構 近畿グループ/野崎徳洲会病院/淀川キリスト教病院

教育、学習支援業

神戸市中学校高等学校教員/日能研関西

サービス業

アデコ/エスクリ/NTTファシリティーズ関西/ 劇団ひまわり/セコム/綜合警備保障/バリューマネジメント/マイナビ/リクルート/ワタベウェディング

公務

大阪府/大阪市/加古川市/たつの市/五條市/警視庁/兵庫県警察

主な進学先

英文学科

神戸女学院大学大学院 文学研究科/同志社大学大学院 ビジネス研究科/関西学院大学大学院 国際 学研究科

総合文化学科

神戸女学院大学大学院 文学研究科/神戸大学大学院 人文学研究科/神戸大学大学院 国際文化学研究科/梅花女子大学大学院 文学研究科

音楽学科

神戸女学院大学大学院 音楽研究科

心理・行動科学科

神戸女学院大学大学院 人間科学研究科/大阪樟蔭 女子大学大学院 人間科学研究科/武庫川女子大学 大学院 文学研究科/梅花女子大学大学院 現代人 間学研究科/鳴門教育大学大学院 学校教育研究科

環境・バイオサイエンス学科

神戸女学院大学大学院 人間科学研究科/大阪大学 大学院 生命機能研究科/神戸大学大学院 医学研 究科/兵庫県立大学大学院 環境人間学研究科/兵 庫県立大学大学院 緑環境景観マネジメント研究科 /奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究 科/九州大学大学院 生物資源環境科学府

2019年度 キャリアサポートプログラム (予定)

◆3年生対象

- 4/17(水) 就職ガイダンス①
- 5/8(水) インターンシップガイダンス
- 5/22(水) インターンシップ選考対策講座①
- 5/29(水) インターンシップ選考対策講座②
- 6/5(水) インターンシップ選考対策講座(3)
- 6/19(水) インターンシップ選考対策講座④
- 7/3(水) SPI 対策講座 (入門編)
- 7/17(水) SPI 模試
- $7/30(火) \sim 8/2(金) \cdot 5(月)$

企業・業界研究ワークショップ

- 8/21(水)~23(金) 自己分析とコミュニケーション講座
- 8/26(月)~30(金) KC エアラインスクール【有料】
- 9/9(月)・10(火) 初期選考突破のための特訓講座:
- 9/ 9(月)・10(人) 初期選号矢板のための特訓講座・ エントリーシート編【有料】
- $9/11(水) \sim 13(金)$ 初期選考突破のための特訓講座:

SPI 編【有料】

- 9/25(水) インターンシップ事後研修会
- 10/2(水) 就職ガイダンス②
- 10/9(水) 《就活ベーシック講座①》就活マナー
- 10/15(火)~17(木) 言語・非言語 Web テスト
- 10/23(水) 《就活ベーシック講座②》筆記試験
- 10/30(水) 《就活ベーシック講座③》「自己 PR」入門
- 11/6(水) 《就活ベーシック講座④》

履歴書+エントリーシート

- 11/14(木) 《就活ベーシック講座⑤》企業・業界研究
- 11/27(水) 《就活アドバンスト講座①》

グループディスカッション

- 12/3(火)~6(金) 学内証明写真撮影会
- 12/7(土) OG 訪問会
- 12/11(水) 《就活アドバンスト講座②》面接
- 1/15(水) 《職種研究講座①》営業職編
- 1/22(水) 《職種研究講座②》事務職編
- 1/28(火) 就活総おさらいセミナー
- 1/31(金) 《就活アドバンスト講座③》

グループディスカッション実践編(1)

2/3(月)~7(金) 《就活アドバンスト講座④》

面接体験講座

- 2/3(月)~5(水) 言語・非言語 Web テスト
- 2/5(水) 就職ガイダンス③

企業・業界の選び方セミナー

2/6(木) お勧め企業紹介セミナー: 学内セミナー参加企業編

お勧め企業紹介セミナー: OG 企業編

2/7(金) MOVICATION:面接編

就職ナビの使い方セミナー+社労士 による「新社会人お役立ちセミナー」

2/10(月) 《就活アドバンスト講座⑤》

グループディスカッション実践編②

2/12(水) 初期選考直前対策講座:

SPI テストセンター編

2/13(木) 初期選考直前対策講座:玉手箱編

初期選考直前対策講座:

履歴書·ES編【有料】

- 3月 学内企業セミナー
- ※このほか、後期に自己分析サポート面談、ゼミ訪問等を実施。

◆4年生対象

- 3/15(金) 模擬面接講座①
- 3/22(金) 模擬面接講座②
- 4/5(金) 模擬面接講座(3)
- 4/12(金) 模擬面接講座④
- 4/19(金) 模擬面接講座⑤
- 4/22(月) 就活総おさらいセミナー
- 4/25(木) 模擬 GD 講座①
- 5/10(金) 模擬面接講座⑥
- 5/17(金) 模擬面接講座(7)
- 5/23(木) 模擬 GD 講座②
- 5/24(金) 模擬面接講座(8)
- 5/31(金) 模擬面接講座⑨
- 6/7(金) 模擬面接講座⑩
- 6/14(金) 模擬面接講座①
- 6月~9月 ホンキの就職
- ※キャリアカウンセラーによる面談は前期中毎日実施。以降も必要に応じて模擬面接講座、振り返り の講座等を実施する予定。

◆2年生対象

- 6/21(金) 進路ガイダンス
- 1/24(金) 就職ガイダンス

◆1年生対象

- 7/5(金) キャリアガイダンス
- 9/27(金) 1年生のためのキャリアデザインセミナー

◆1~3年生対象

- 5/17(金) 公務員ガイダンス①
- 5/24(金) 公務員ガイダンス②
- 5/31(金) 公務員受験対策講座説明会 神戸市によるガイダンス
- 10月~11月 仕事発見セミナー (金曜日)
- 10月~11月 業界探究セミナー(金曜日)
- 12/4(水) 地方就職セミナー
- 2月 企業研究セミナー

<受入れ留学生報告>

Since Coming to Japan

ボーリンググリーン大学交換留学生

Since coming to Kobe College, I have been able to gain a multitude of experiences and meet many people. While I know my time here is short-lived, it has taught me a lot. If I am able to move to Japan in the future, I will definitely have a better grasp on the way of life in Japan compared to if I had not studied here. My teachers were so supportive, and I was able to meet a few people who I hope will become life-long friends. Everyone who I have been able to interact with has taught me something about Japan, Japanese culture and way of life, or about Japanese people.

Also, I was able to study in Kansai—the region in Japan I was most interested in. I wanted to learn about the dialect and the humor because of some friends I have from Osaka. I also wanted to explore more of Kansai. By doing so, I experienced what I think are some of the coolest place in Japan, such as Kyoto and Nara.

Since coming to Japan, I have been able to further decipher what I want out of life, besides to be happy. I was able to work on a manga translation project and enjoyed it so much that I plan to pursue translation in graduate school and in my career. I also fell in love with Kobe and Okinawa and realized I would like to one day live in Kobe or Okinawa, or in a place like one of them.

Kobe College and friends,

ワイオミング大学交換留学生

I came to Japan to expand my horizons, by learning about the Japanese mindset and their culture, and try learning the language along the way. The new experience would be both fun and enjoyable, but it would also be a helpful addition towards my degree back in the America.

It has been a new experience for me; however, I had many people helping me along the way! The IPC staff at Kobe College not only helped make it a smooth transition getting into Kobe College, but have also been helpful throughout my stay. The dorm mother was very nice and has made dorm life easier. My teachers have been very helpful in introducing the business and international views of Japan, as well as, the culture, general mindset and language of Japan. All of which were very helpful subjects. I was able to make some nice friends with my buddies, the other international students, and the E-Zone staff, they were all very helpful and fun to hangout with. I was able to try many cuisines and see many neat places, the Japanese castles and palaces being my favorite. I experienced a very nice New Year, with a great host family. I pounded mochi, tried some beautifully arranged osechi ryori, and was able to thoroughly enjoy a New Years Bunraku with them.

Kobe College is a very beautiful campus and have some very kind and considerate staff and students. I was able to make some nice friends and I hope to stay in contact with them. Thank you Kobe College for giving me the opportunity to make new friends and experience Japan. I will be able to take this new experience and knowledge with me throughout my continued classes and everyday life in America.

Thank you and God Bless!

またどこかであいましょう

広東外語外貿大学交換留学生

中国の広東外語外貿大学から来ました。去年の9月に神戸女学院大学に留学に来ました。すでに半年以上経ち、時間は早いものだなぁとしみじみと感じます。実は来日する前は、日本の生活に慣れるか、友だちができるかなど色々心配しました。ですが、周りの日本の方と他の留学生みんなが優しくしてくださったので、日本での留学生活はとても楽しく過ごせるようになりました。

授業の中で、「比較文化総合演習」という授業が一番好きです。3人以上の先生がいらっしゃり、学生と一緒に発表の内容を検討するという授業の形式は中国では珍しいです。みんな専攻が違いますが、研究に対する熱意は同じなので、違和感など一切ありません。むしろ専攻が違うからこそ、たくさんのアイディアが湧いてきます。授業を受けるうちに、「~ないでください」という用語の使用実態がだんだん気になり、修士論文以外に中日母語話者と学習者向けのアンケート調査をおこないたくなりました。そして建石先生から大切な資料をいただき、いろいろ指導を受け、修士論文をやっと完成しました。

去年の10月に合気道部に入ることを決めました。 学校での稽古は週に2回だけですが、内田先生の道 場に行くなら毎日練習できます。合気道を通じて、 人と人のやりとりと、お互いの配慮をよりよく理解 できて、いい勉強になりました。そしてみんな一緒 にハロウィンパーティとピザパーティをしたり、岡 田山祭向けの準備をしたり、すごく楽しかったで す。

寮に住んでいるおかげで、たくさんの友だちができました。和服体験や舞妓体験など大切な思い出をたくさん作りました。この1年間の留学で出会った人とのつながりをずっと続けていきたいです。

神戸女学院での一年

広東外語外貿大学交換留学生

光陰矢の如し。神戸女学院での留学生活はわずかな日数しか残っていない。ここでの楽しく、幸せな生活は一生の思い出で、ずっと私の心に残るだろう。

私にとって、神戸女学院への留学は初めて日本へ来るだけではなく、初めて海外に出ることでもあった。来たばかりの時、日中の文化の差異等が原因で、普通の小さなことを間違えたことがあった。「なんでこんなこともうまくできないの?」と思って、不安で恥ずかしく感じられた。でも、嬉しいことに、先生方も日本人の学生さんもみんな優しく、私を助けてくれた。教えてくれたり、相談にのってくれて、本当にありがたい。それに、ほかの国の留学生と友だちになって、いろいろな話をしたのも斬新で、忘れられないことであった。

神戸女学院で体験したのは正真正銘の独り暮らしといえよう。中国の大学寮は普通4人部屋で、ルームメイトと一緒に暮らすのが珍しくない。食堂は朝食、昼食、夕食全部あって、自分で料理を作るのはめったにない。だが、神戸女学院の寮は1人部屋で、食堂は昼ごはんしかなく、晩ごはんや土日のごはんは自分で作らなければならない。独り暮らしを体験でき、生活能力もアップしたといえるだろう。

せっかくの留学生活なので、むだにしてはもったいないと思って、1年間、日本のあちこちへ旅行に行った。ディズニーランドと東京タワー、京都の桜と紅葉、和歌山県のパンダ等々、大変楽しかった。まだ少しのところにしか行けなかったが、日本の1年の風景を見ることができて、幸せだった。またチャンスがあれば、より多くのところへ観光に行きたい。

もうすぐ留学生活が終わるのは残念だが、帰国後 まじめに勉強して、日本の大学院に入りたい。この 夢が叶えば、また日本で生活することができる。ど うかうまくいきますように。

<中期英語留学報告> チャタム大学

中期英語留学を終えて

文学部 英文学科 3年生

私は、2018年8月から中期英語留学に参加しまし た。私は大学生になったら、留学したいという漠然 とした目標が入学前からありました。神戸女学院大 学に入学してから、この留学制度を知り、私の漠然 とした目標は明確な目標へと変わりました。いざ出 発前になると初めて両親と離れて長く生活するこ と、友人となかなか会えなくなることなど、不安に 押しつぶされそうになりました。しかし、いざ留学 生活がはじまってみると、とても内容の濃い充実し た日々でした。月曜日から木曜日までは授業があ り、金曜日はチャタム大学の日本語教室のお手伝 い、土日はカンバーセーションパートナーにアク ティビティに連れていってもらったり、ルームメイ トや、現地の友だちと出かけたり、博物館に行った りと勉強だけではなく観光も楽しみました。授業ク ラスでは唯一の日本人ですごく不安でしたが、クラ スメイトも先生方もみんなとても親切で、毎回授業 に行くのがとても楽しみでした。部屋に帰って来て からも、言葉がつまったり、ルームメイトの言って ることがわからず、きちんと受け答えできなくて も、いやな顔ひとつせず、真剣に温かく私に向き 合っててくれたため、人見知りの私でもためらわ ず、話すことができました。この留学生活は英語力 向上ということだけではなく、現地の人々の温かさ に気付いたり、親への感謝、自分について見つめ直 すという貴重な経験ができました。本当にありがと うございました。



カンバーセーションパートナーとアイスホッケー場にて

<中期海外研修報告> クイーンズランド大学

オーストラリア ブリスベンでの学び

文学部 英文学科 4年生

中期海外研修当初、現地に慣れることに必死で、 英語も上手に話すことができなかったことからホス トマザーとのコミュニケーションが上手くいかず、 落ち込むときがありました。しかしこのまま後悔だ けして終わりたくないと考え直し、自ら積極的にホ ストマザーに話しかけることやもし自分が相手の立 場だったらどうされたいか自分を客観視し、自己開 示を心掛けた結果、ホストマザーのことをよく知る ことができ、お互いの考え方が分かるようになりま した。この経験から、相手との距離をはかるために はまず相手を知る努力が重要だと学ぶことができま した。現地の大学では、多国籍の学生と一緒に学 び、授業中は生徒が自ら積極的に挙手をして発言を している姿を多く見かけ、海外では自分が疑問に 思ったことはすぐに自己主張をしてしっかり相手に 自分の考えを伝えるという日本との文化の違いを実 感しました。

1ヶ月の旅行代理店のインターン体験では、当初 社員の英語が速くて聞き取れず、内容の理解不足から入力作業の仕事にミスが生じたこともありました。チーム内の役割判断、自分の考えの積極的な表現を心掛け作業に取り組んだところ、結果的に上司の信頼が得られ他の仕事も任せてもらえるようになり自分に自信をつけることができました。この中期海外研修を通して、自分から積極的に行動することの大切さや、日本では得られない経験や文化の違いを学ぶことができ自己成長することができました。



ホストマザーと犬とリビングにて

カリフォルニア大学アーバイン校

私の留学生活

文学部 英文学科 3年生

私の夢の一つであった留学が決まった時はとても 嬉しかったです。しかし、出発当日は、不安の気持 ちでいっぱいでした。ついに、カリフォルニア大学 アーバイン校での授業、ホームステイの7か月間の 留学生活がはじまりました。

はじめは、自分の英語力の無さや、新しい環境にとても不安を感じました。しかし、そんな不安はすぐに消えました。気がつけば、新しい友だちとランチの時間、放課後、週末を共に過ごしていました。授業ではプレゼンテーション、テストなどで自分の実力を試す機会が多くありました。また、英語を学んですぐに友人、ホストファミリーとの会話として使う機会があり、英語が身についていると実感しました。

7か月の留学生活は長いようで短かったです。ホストファミリーは、私の未熟な英語を理解しようとしてくれ、Thanksgiving などアメリカの文化を経験させてくれたり、ジョークを言い合ったりと、たくさんの素敵な思い出があります。

留学生活では、話す言語、宗教、文化が違っても、親しい関係を築くことができると実際に感じました。本当にたくさんの思い出があり、まとめることは難しいですが、自分の想像をはるかに超えた留学生活であったと振り返ります。今でも、国境を越えた友人と連絡を取り合っています。

そして、遠く離れた日本で私をサポートしてくれた家族への感謝の気持ちを忘れずに、この留学で学んだことを生かし、勉学に励みながらこれからの人生の糧にしていきたいです。



友だちとハロウィンパーティ

カナダ・ヨーク大学

学ぶことの楽しさ

文学部 総合文化学科 4年生

私は、3年生後期からカナダのヨーク大学にて、 語学研修に半年間参加させていただきました。その 中で、多くのことを学び、経験させていただきまし た。

勉強面では、それぞれのセメスターごとにライティングやリーディングなど苦手分野を中心に勉強していました。また授業は、意見や主体性を求められることも多く、話し合いやチームでプレゼンをすることもありました。私は意見を述べたりすることが苦手でしたが、参加していくうちに抵抗がなくなっていきました。この経験から、主体的に仲間と共に学ぶ楽しさを知りました。この半年間で学んだことを今後の英語学習に活かしていきたいと思います。

また勉強面以外では、週末や授業終わりにカナダでできた友人と出かけたり、長期休暇には、旅行に行ったりして過ごしました。国籍や価値観も異なる人々と出会い、交流していく中で、文化の違いや日本の良さを知っていくことは、大変興味深く、面白い経験でした。そういった過程で、自分の視点を持つことの大切さを学びました。

沢山の人と出会い、仲間と共に切磋琢磨した時間 はとても充実したものでした。その中でも、日本で は得られなかった友人と出会えたことがこの半年間 で最も自分にとってよかったことだと考えていま す。最後に、留学に関わり、支えてくださった皆さ んに感謝しています。このような貴重な経験をさせ ていただく機会をありがとうございました。



恩師と

<春期語学研修報告> 英国・ヨーク大学

語学研修での学び

文学部 英文学科 3年生

私は以前に授業でイギリスの文化や歴史について 学んだことがあり、そこでイギリスに興味を持った ため、今回の研修先をイギリスに決定いたしまし た。この語学研修では様々な貴重な経験をさせてい ただきましたが、私が最も心に残ったことの一つは ホームステイでの生活です。最初は日本語が全く通 じない環境での生活に不安を感じていたのですが、 その心配はすぐに無くなりました。私が拙い英語で 必死に言いたいことを伝えようとすると、ホスト ファミリーの方はゆっくり話を聞き、私の言葉を理 解しようとしてくださいました。だから、私も勇気 を持って英語で伝えてみようと思うことができ、た くさんお話をすることができました。また、ヨーク 大学の先生方は私たちの顔と名前をすぐに覚えてく ださり、優しく接してくださいました。大学のビデ オリサーチプロジェクトでは、現地の方にアンケー トを取って集計を出し、動画とパワーポイントを使 用してプレゼンテーションをしました。現地の方と 話す中で、日本に興味を持ってくださる方もいて、 良い交流の場を築くことができたと感じました。こ のプロジェクトでの達成感はとても大きかったで す。私は長期間海外で生活することは初めてで不安 も大きかったのですが、このようにたくさんのこと を学んで体験し、様々な人と出会えたことは、本当 に貴重な経験になりました。これから先もこの語学 研修で学んだことを活かしていきたいと思います。



ヨーク大学にて

クイーンズランド大学

ブリスベンでの学び

文学部 総合文化学科 2年生

ブリスベンで過ごした5週間は私にとって、とても意味のある経験になりました。きっかけとしては語学力を上げる目的で語学研修に参加したのですが、語学だけでなく、たくさんの学びを吸収することができました。

例えば、オーストラリアは多国籍国家であるという日本にはない特徴があるので、よりたくさんの国の人々とコミュニケーションをとることができました。いろいろな国の人々のいろいろな話を聞くことができて、視野が広がり、多様な考え方があることを知りました。日本ではなかなかできない体験だったのでとても良い刺激を受けました。

また、日本人は他の国の人と比べて、積極性に欠けているなと気づくことができました。多国籍なクラスメートと同じ教室で、毎日一緒に授業を受けていたから気づくことができたのだと思っています。

滞在中はできるだけ日本人以外の留学生や現地の学生と交流したいと思っていたので、野外や現地の方の家でのパーティーなど積極的にアクティビティに参加しました。出会った方たちはみんな親切でとても環境に恵まれていたと思います。

今回の研修を通して、考え方や行動力の面で、新 しい自分を見つけることができたような気がしま す。これからもこの経験を活かして日々過ごしてい きたいと思います。



現地の学生、留学生との交流

広東外語外貿大学

広東外語外貿大学での学び

文学部 総合文化学科 2年生

中国にある広東外語外貿大学に3週間の語学研修 に行ってきました。この研修でたくさんの出会い、 経験、成長をすることができました。

研修に参加するにあたって、自分の語学力の無さ や経験のない地での生活に不安を感じていました。 しかし、何事も前進あるのみです。なにかに失敗し たり辛いことがあったとしてもそれは一つの経験で あり、その経験が自分の成長に繋がります。そう思 い研修への参加を決めました。研修に参加してみ て、自分の想像以上に成長し学ぶことができまし た。語学はもちろんのこと、日本語学科の学生と交 流をして、学生の温かさがわたしの成長に繋がりま した。

私たちには6人の日本語学科の学生が3週間サポートとしてついてくれていました。あまり話せない私たちにひとつひとつ丁寧に教えてくれ、今度は私が日本語や日本のことを教えてあげたい、という思いでいっぱいになりました。

語学研修に参加して中国語を学びたい気持ちが高まり、来年の派遣留学にチャレンジしたいと思いました。それまで日々の学習により力を入れ、自信をもって中国に行けるよう頑張ります。

そして、このような経験をさせてくれた両親、サポートしてくださった先生方、日本語学科の学生に心から感謝の気持ちでいっぱいです。この感謝の気持ちを忘れず、今後の学習により力を入れていきたいと思います。



広州でクルージング

梨花女子大学

国を超えた繋がり

文学部 総合文化学科 3年生

私は以前から韓国という国について関心があり、 韓国語はある程度習得していたつもりでした。しか しいざ現地へ行くと、聞き取ることはできてもうま く言葉が出てこなかったり、発音が通じずに聞き返 されたり、最初はうまくいかないことばかりでした が、自分の語学力としっかり向き合い向上させるい い機会になったと感じます。

クラスメイトは多国籍でしたが、全員の唯一の共通言語が韓国語、さらに学生以外にも様々な職種の人がおり、それぞれ韓国語学習の目的はバラバラでしたが、韓国という国が好きで来ているという点ではみんな同じでした。そういった人たちと一緒に同じ教室で韓国語を学んでいるという状況が新鮮で、狭かった視野が一気に広げられたような感覚でした。

そんな環境の中で日々勉強に励み、最後のテストではクラス最高得点をとることができたのですが、そのことを先生方2人がとても喜んでくださり、その時に初めて自分の韓国語が正式に認められたという実感と達成感を得ることができました。

外国での長期滞在はもちろん韓国へ行くこと自体 今回が初めてでしたが、より想いが大きくなった一 方で、やはりふとした瞬間に隣国でありながらも遠 く感じてしまう瞬間があったことは事実でした。し かしそれも含めて改めて韓国という国が好きだとい うこと、政治や言葉の壁があっても人と人は繋がる ことができるということを今回の語学研修を通して 改めて実感することができました。



クラスメイト全員と修了式にて

<私の研究>

私の研究

古村 敏明



私の研究は、主にアメリカ 詩、その中でも現代詩を中心 に扱っています。詩はわかり にくい、という声をしばしば 耳にいたしますが、詩は、容 易に答えに辿り着かない不可 解なものについて考え続ける こと、または、必ずしも答え

のない問いに対して独自の答えを導き出すように思 考することを促します。現代のように多様な価値観 が存在する「正解」がない国際化時代を生きていく ために必要な総合的人間理解の力を養うには適して いる学問ではないでしょうか。

私の研究の主題は、アメリカ詩で表現される共感について、喪失について、災害などからの回復について、2016年大統領選挙後のアメリカの現状について、など多岐に渡ります。来年度に出版が予定されている著書では、現代アメリカ詩の中でも主に「悲」の感情に関わるエレジー(哀歌)が、現代になってどのように変化したかを探究します。現代以前のエレジーにおいては、「慰め」が重要な哲学的基盤でしたが、現代詩では、この「慰め」を忌避、否定する傾向があります。この事象を、ウォーレス・スティーブンズ、シルヴィア・プラス、エリザベス・ビショップ、シャロン・オールズなど、代表的な詩人の作品群を通して考察しています。

この研究の文学分野への貢献は、エレジーの変化を解明することにありますが、同時に、社会的意義としては、アメリカにおける9.11、日本における東日本大震災、個人においては親しい人の死など、今も必要とされているエレジーのより倫理的なかたちを模索するものです。これらの命題について考えることは、それ自体慰めや昇華にならなくとも、悲痛と折り合いをつけられる可能性を探る手助けになります。人生の難題に対し一定の理解をもたらす詩は、癒しであると考えます。

(英文学科准教授)

原発、大丈夫?

小林 哲郎



定年を迎える年に入り、私 の研究を振り返る機会が与え られたことに不思議なご縁を 感じます。

私が大学の教員になったの は1984年。金沢美術工芸大学 の専任講師として赴任しまし た。当時は、文章完成法を応

用した SCT-B という心理検査を考案し、他の検査 との相関や臨床データを集めて分析することに情熱 を傾けていました。1992年に天理大学に移ってから SCT-B の研究はペースダウンしますが、後年、この 研究で博士の学位を得ることができました。皆さん も若い内に頑張っておきましょう。

天理大学に赴任してからは、奈良県教育委員会の スクールカウンセラー派遣事業に登録して、単発の スクールカウンセラー (以下 SC) の仕事を始めまし た。また、同年にA町が自治体単位で実施している SC を前任者から引き継ぎ、週1回の SC も始めまし た。1995年に文部省(現文科省)がSC活用調査事 業を始める前から SC を経験していたわけです。 1996年から京都市で SC を続けています。1995年の 阪神淡路大震災をきっかけに「臨床心理士の被災地 での活動を考える会」という、臨床心理士のボラン ティアの会を作り、被災現場の情報を集め、臨床心 理の専門家として何ができるか討論し、ニュースレ ターを発行するという活動をしました。その経験 は、京都で小学生が校内で青年に刺されて亡くなる 事件に関する SC にも活かされましたし、2011年の 東日本大震災の支援にも活かされました。今でも、 子どもや家族、学校が関わる事件、事故の心のケア を学校で実施したり、楽しくはないですがいろいろ な経験をしています。しかし、SC に関係した経験 で一番印象深いことは東日本大震災で福島の現場に 行ったこと。この地震国で原発を稼働させることの 危険性を痛感しました。原発のこと。本気で考えま しょう。

(心理・行動科学科教授)

<ゼミ紹介>

法 学~法と社会と私をつなぐ~

米田 真澄

私のゼミは法学のゼミです。ただし、複数の判例とにらめっこしたり、ある条文の解釈を巡る議論を読んで論点を出し合ったりというようなスタイルはとっていません。3年生のゼミでは、一人の学生の発表を「問題提起」として位置付け、そこから他の学生も一緒に、歴史学、福祉学、法学、社会学など複数の学問領域から問題について考えていきます。

たとえば、3年生のゼミでは、倫理学のある授業で「旧優生保護法」について学んだことを一人の学生が発表してくれました。そこで、「旧」ということは、今はその法律は存在しないのか、「優生保護」とは何を保護しようとしていたのか、その法律の目的は何だったのか、法律が作られた時代も関係があるのではないか、どのような人々がどのような被害を受けたのか、被害者の救済はどうなっているのか、他のゼミ生たちからも多くの疑問が出されました。学生たちは、いくつも挙がった疑問のなかから、自分がさらに調べてくることを出し合いました。

ある学生は「旧優生保護法」の優生思想が削除され「母体保護法」に改正された1996年に着目。同年、元ハンセン病患者を強制隔離してきた「らい予防法」も廃止されたことを発表しました。どちらも国による人権侵害という共通点があります。個人が集まってつくる社会。その中で法が作られますが、一定の人たちを排除するためにも法は作られることを学生たちは学びました。

(総合文化学科教授)



課題に取り組むゼミ学生たち

身近な化学物質の毒性を評価する

横田 弘文

私たちは化学物質の恩恵を受けて豊かで快適な生活を送っていますが、中には人体や環境に対し悪影響を及ぼすものもあります。中でも、近年問題視されているのが医薬品です。服用した医薬品はし尿として排泄され、下水処理場で処理されますが、一部は完全に処理されずに河川に流出し、水生生物に毒性を及ぼす恐れのあることが明らかになっています。そのため、医薬品の環境生物に対する毒性を評価するための試験法が世界中で開発されています。

私のゼミでは、多くの河川から検出されている解 熱鎮痛剤のメダカに対する毒性を研究しています。 これまでの結果、解熱鎮痛剤の薬理作用はメダカに も働き、その薬理作用によりメダカの排卵が阻害さ れ、繁殖不全となることを明らかにしました。さら に、2013年度の4年生がメダカの繁殖に対する影響 を調べている最中に、解熱鎮痛剤を投与したメダカ の下顎が欠損するという形態異常が、オスのみに生 じることを世界に先駆けて発見しました。これは私 も全く予想していなかった実験結果で、まさにセレ ンディピティでした。当時の4年生が研究の目的 (繁殖影響)とは直接関係ない変化に対しても、あり のままを詳細に観察・記録していたことが非常に大 きな成果へと結びつきました。このことは私自身研 究者・教員として改めて肝に銘じた出来事でしたし、 この解熱鎮痛剤による魚類の下顎欠損は、現在ゼミ の主要な研究テーマとして大きく進展しています。

(環境・バイオサイエンス学科教授)



メダカの下顎を詳細に観察している 4年生

<課外活動紹介>

[クラブ] **美術部ゆっか会**

部長

美術部ゆっか会の活動

美術部ゆっか会は、部員それぞれがやりたいこと を決めて、好きなときに好きなだけ制作に取り組ん でいるので、自分のペースで自由にのびのびと活動 できます。愛校バザーや大学祭などの行事では、ハ ンドメイドのアクセサリーやポストカードを作成 し、販売します。普段の活動は個人制作で、油絵や 水彩画を描いています。作品制作は試行錯誤の連続 で、時には細かい作業もあるため、仕上がるまでに 時間がかかってしまいますが、完成したときは何も のにも代え難い達成感を味わえます。完成した作品 は部員同士で鑑賞し、意見を交換します。他の人の 作品を見ることによって、自分とは異なった視点か ら着想を得られるので、制作の上で意見交換は欠か せません。また、学内だけではなく学外で自分の実 力を測りたい場合は、アートコンペなどに応募する こともできます。コンペなどで入賞することは、美 術部の目標の1つです。さらに、部員一人ひとりの 感性を大切にして、自分の興味があることに積極的 に取り組んでいくことも重視したいです。

白紙状態から作品を作りはじめることは一見難しいように思えますが、見方を変えれば、それだけ自由度が高く、自分の意志で制作できるということです。そこが美術部の魅力でもあります。現在は少人数ですが、部員一丸となって、作品作りに励んでいきたいです。



制作風景 部室で部員が油絵を描いている場面です。

「クラブ **スカッシュラケット部**

文学部 英文学科 2年生

スカッシュラケット部の活動

神戸女学院大学のスカッシュラケット部では、現在4年生2人、3年生4人、2年生3人、1年生5人の合計14人で、練習は阪急石橋駅の近くにある施設で、毎週火曜日と木曜日、第2、4土曜日に活動しています。ほとんどの部員は大学生からスカッシュをはじめ、それぞれ自分たちの目標に向かって、互いに切磋琢磨しながら日々の練習に励んでいます。

私たちは一年を通してたくさんの試合がありま す。6月には関西学生選手権、7、8月にはサマー フェスティバル新人戦、選手権、8、9月には全国 大会の予選ともなる関西学生新人戦、選手権があ り、日々の練習の成果を発揮する機会がたくさんあ ります。それだけでなく毎年夏休みと春休みには、 岡山県や群馬県で2泊3日の合宿をおこなってお り、他大学から学生コーチやプロのコーチを招き、 ラケットの持ち方や打ち方などの基本的な練習か ら、ボーストなどの応用練習まで、フォームや動き を確認しながら様々な練習をします。最終日にはみ んなで試合をおこない、練習の成果を発揮します。 ハードな練習ばかりで大変なのですが、チーム全体 の仲も深まるので、毎回楽しく充実した合宿になっ ています。これらのおかげで昨年では4人の選手が 全国大会に出場し、ありがたくクローバー賞をいた だくことができました。

今後スカッシュラケット部では部員一人一人が目標をもって精進し、日々の自分自身を超えられるように練習に励みたいと考えております。



夏合宿での集合写真

中高部報告

第11回日本地学オリンピック報告

高等学部 1年生

私は、3月10日(日)~12日(火)に茨城県つくば市 でおこなわれた日本地学オリンピック本選に参加し ました。この大会では全国から60人ほどの地学好き の中学生、高校生が集まって地学の知識や技能を競 います。試験以外の日は講演を聞き、OG会の方た ちや留学生との交流会や国立科学博物館の施設と国 土地理院の施設の見学に参加し、とても楽しい日程 でした。講演会では4人の大学教授や国立研究所の 研究者の方が来られ、西日本と東日本の地震の違 い、放射年代測定、竜巻の発生、海に沈んだ幻の大 陸講演をしてくださいました。国立博物館では膨大 な数の化石と岩石、鉱物の標本が保管されておりと てもいいものが見られました。日本地学オリンピッ クでは国際大会の選手の選考が目的とされています が、地学好きの中高生が交流できるというのも魅力 です。参加している人の中には自分で研究をおこ なっている人や、石についてとても詳しい人がいて びっくりしました。2日目の夜は狭い部屋に大人数 がこもって日にちが変わるまで石を交換したり、地 学について語り合ったりしました。正直これが一番 印象に残っています。みんなと話し合っているうち に地学ってこんなに面白いんだ!と思うようになり ました。今回の地学オリンピックの経験を糧にもっ と地学について勉強して、来年もぜひ参加できたら いいなと思います。

第47回高校生英語弁論大会報告

高等学部 2年生

私は1月に豊中市でおこなわれた第47回高校生英語弁論大会に参加させていただきました。この大会は大阪府豊中市の主催でおこなわれ、豊中市に住んでいる高校生が出場できる英語を用いておこなわれる弁論大会です。豊中市はアメリカのサンフランシスコから車で20分ほどのところにあるサンマテオ市と姉妹都市で、今回の大会での成績優秀者は豊中・サンマテオ姉妹都市親善使節として夏休み中にサンマテオ市へ派遣されます。また、サンマテオ市からも豊中市に親善使節団が送られてきます。

今回の大会で一番印象に残ったのは大会のちょうど1週間前にインフルエンザを妹からもらってしまい、またちょうど学校の入試休みとも被ってしまったので、先生方と本番まで2週間ほどお会いして練習できないまま本番を迎えてしまったことです。さらに、インフルエンザの薬が効かなかったため家でもうなされながらイメージトレーニングをすることしかできず、実際に練習できたのは2日前からでした。このような状況でも2位をいただけたのは、普段から英語に接する機会が多い神戸女学院の英語教育のおかげだと思います。夏のサンマテオ市への派遣に向けて英語の技量を上げるために、さらに精進していきたいです。

最後になりましたが、大会関連でご指導いただい た先生方、友人、その他支えてくださった全ての 方々に感謝しています。本当にありがとうございま した。

現代短歌が好き

高等学部 3年生

この度、第19回歌垣の里・白石三十一文字コンテスト高校生の部において、最優秀賞をいただくことができました。短歌はお堅くて難しいというイメージをお持ちの方もいらっしゃるかもしれませんが、現代短歌はとてもフレッシュで、ありふれた身近な日常を鮮やかに切り取ることができます。俳句のような季語などの細かい規定はなく、自分の感じたことをありのままに表現できるのが魅力です。物事をいつもとは異なる角度から眺めてみたり、不思議な言い回しを試してみたり、現代短歌は自由度が高いので幅広い表現を可能にし、歌人の豊かな感性を余すところなく活かしてくれるのです。

さて、このコンテストで私は「愛」をテーマに短歌を詠みました。限られた文字数の中で物事を表現するのは難しく、リズム感や歯切れの良さを重視しすぎると内容が伝わりにくくなってしまいます。しかし、月並みな表現を何度も何度も塗り替え、次第に自分の本心に最も近く、純度の高い言葉が浮かんだとき、制限された字数の中でこそ言葉はいきいきするのだと思いました。

最近では参考書や画面上の文字が温度のないものに見えることもありますが、やはり言葉のもつ力は大きく、日本語であそぶのは楽しいです。これからも日本語の美しさと遊び心を忘れず、心に残った風景や思い出を歌にすることができたらと思います。

兵庫県そろばんコンテストに出場して

中学部 2年生

「優勝おめでとう。」そろばんの先生の一言に思わず笑顔になりました。2月10日(日)、全国珠算教育連盟主催「兵庫県そろばんコンテスト」に参加しました。この大会には、小学校1年生から出場し続け、今年で7年目となります。2年目からは毎年優勝してきたので、今年もとりたい、という思いで結果を聞くまでとても緊張していました。無事連覇を果たすことができ本当に嬉しかったです。

優勝を続けてきたといっても、6年間の中には、受験勉強のため思うように練習ができない時期もありました。受験をせずそろばんだけに打ち込める選手たちをうらやましく感じもしました。しかし、中学生になり気づけたことがあります。全国大会に出場すると、多くの選手と知り合いますが、みんな学校生活とそろばんとを両立させているのです。また、働きながらそろばんを続けている大人の選手もたくさんいます。そろばんだけをしている人はいない、みんな努力や工夫をして続けている、ということに気がつき、私も私なりに頑張ろう、と気持ちを新たにしました。これからの中学高校生活で、色々なことに挑戦したいと思っています。でも、そろばんもコツコツと続け、この大会で優勝し続けることも、目標の一つにしていきます。

最後になりましたが、指導してくださった先生、 ずっと応援してくれる家族、いつも一緒に練習して くれる仲間、すべての方々に感謝しています。本当 にありがとうございました。

52

中高部図書室報告

I. 2018年度の主なできごと

(1) 蔵書点検 2018年7月17日(火)~26日(木) のうち8日間

読書会 2019年2月6日(水) J1~S2

2019年度中学部入学試験結果報告

日程:2019年1月19日(土)・21日(月)

募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
135	262	256	155	145

(中高部事務室)

Ⅱ. a 2018年度増加図書冊数(資産化図書)

	購入	寄贈	移管	合計
和漢書	2	0	0	2
洋書	0	0	0	0
合計 (冊)	2	0	0	2

b 1972年以降受け入れ図書の蔵書冊数の増減 (資産化図書)

2018年度	増加数	2
2018年度	除籍数	828
蔵書数	(冊)	6,935

c 消耗図書費の蔵書冊数の増減

2018年度	増加数	1,727
2018年度	除籍数	1,281
蔵書数	(冊)	56,258

Ⅲ. 2018年度貸し出し冊数

J 1	3,305
J 2	3,097
J 3	2,303
S1	900
S 2	872
S3	47
教職員	904
大学生・大学院生	41
その他	53
合計 (冊)	11,522

貸し出し日数 207日 1日平均 56冊

(中高部図書室司書教諭)



J1 デイキャンプ報告

4月1日(月)、2日(火)の2日間に渡って、J1デイキャンプがおこなわれました。今年度のピンクの学年を迎えるに当たり、上級生50名が会議をかさねて準備をしてきました。緊張をほぐすためのレクリエーションから、学校のルールや施設の場所などを楽しく覚えていくためのしかけ、神戸女学院が大切にしている礼拝のことなど、新入生がうまくスタートをきることができるように工夫が凝らされています。

参加している上級生は、それぞれ新入生の時に先輩たちに親切に導かれて神戸女学院生になっていきました。今度は彼女たちが新入生の導き手として熱心に活動をしていました。

「キャンプ」という名が付いていますが、現在は学校でおこなっており、宿泊もしません。登下校も先輩たちが見守り、登下校ルート、登下校のマナーを教えます。 J1担任の教師は朝の点呼と SHR をおこない、新入生には普段の学校生活の雰囲気に慣れてもらいます。

ジグソーパズル作りでは学年カラーであるピンクの絵の具を使って、各クラス1枚の大きなジクソーパズルに絵を描き、それぞれ神戸女学院での抱負を書きます。完成したジクソーパズルはJ1ホームルーム前に架けられます。毎年このジクソーパズルが架かると新学期が始まったことを感じ、上級生は自分が入学した時の新鮮な気持ちを思い出すようです。

最後の礼拝ではメディテーションがおこなわれ、 厳かな雰囲気の中、それぞれに静かに内省の時間を もちました。

(ディレクター)

大阪水上隣保館訪問を通して

高等学部 2年生

水上隣保館訪問とは、様々な理由で親と一緒に暮らすことのできない子どもたちと一緒に遊ぶ行事です。

水上隣保館にいる子どもたちは何かできるように なると、遠くに居る先生に向かって必ず言う言葉が ありました。それは「見て見て」です。その言葉を 聞くたびに、私が一輪車や自転車に乗れるように なった時、「見て見て」と言わなくても近くにはその 喜びを一緒に受け止めてくれる家族がいたこと、そ してそういう存在があることのうれしさを思い出 し、その子のために先生を必死で呼びました。する とその子はとても喜んでくれて、その姿を見ると私 も自然と嬉しくなりました。しかし、今、先生の立 場に立って考えてみると、その子にとって日常のお 母さんは先生だけど、先生は水上隣保館にいる生徒 みんなのお母さんであって、常に一人の子のことだ けを考えてそばに居ることはできません。だから、 どこまでその子に対してやってあげるべきかを考え て接さなければならない難しさがあると思い、先生 に対して漠然とすごいなと感じました。訪問前は 「かわいそう」という先入観がありました。しかし、 今回の訪問を通して先入観で片付けることなく、現 場に行き経験することの大切さを感じました。この 一日の訪問を一緒に遊んだ子が覚えていなかったと しても、覚えている私たちがなにかを考えて行動す ればそれは決して無意味ではないと思います。皆さ んもぜひ水上隣保館訪問に参加してみてください。

春の子ども会報告

去る4月27日(土)に春の子ども会が開催されました。春の子ども会は近隣の児童養護施設で暮らす子どもたちと神戸女学院・関西学院の高校生とが一日を過ごす伝統ある行事です。今回は5施設の子どもたちを招待し、神戸女学院を会場として開催されました。

本校生徒と関西学院の生徒たちとが入念な打ち合わせと準備を重ね、満を持して迎えたこの日、絶好の子ども会日和となりました。10時前に賑やかな雰囲気の中、開会式がおこなわれ、関西学院グリー部の迫力満点のコーラス、そして神戸女学院 ESS による華やかなダンスと歌、ブラスバンド部による力強く楽しい演奏を満喫しました。その後、午前中は一号館で各種ゲームに興じ、お昼には藤棚前で本校食堂の方が作ってくださったお弁当に舌鼓を打ちました。午後はグラウンドにて思い切り羽を伸ばし、16時前には子どもたち全員が、高校生に付き添われ、たくさんのお土産を持って笑顔で帰路につきました。

春の子ども会は、子どもたちのみならず、本校や 関西学院の生徒たちにとっても最も楽しみな行事の 一つです。満面の笑顔が絶えない、素敵な一日と なったことに感謝して「報告」とさせていただきま す。

なお、当日の引率教員は6名でした。

(高等学部自治会顧問)

2019年度 中高部体育祭

去る6月4日(火)に中高部体育祭が開催されました。中高部体育祭は1988年度以降6学年縦割りの6組対抗でおこなわれており、今年で縦割り32年目となります。今年も新入生のJ1から最高学年のS3までが一丸となり、自分の組の勝利に向けて真剣勝負を繰り広げ、新たな歴史の1ページを刻みました。

午前は礼拝、行進、開会式に引き続いて、登校競走、綱引き、玉入れ、人生レース、棒引き、200 m 競走、DEKA☆パンレース、棒上帽子争奪戦をおこないました。午後からは学年対抗パフォーマンス、応援合戦、むかで競走、600 m リレー、騎馬戦を実施し、熱い体育祭の一日を終えました。

今年も準備の段階から競技の安全性を重視し、体育祭企画実行委員会・体育部・各組が協力してルールについて議論を重ねてきました。本番は各組がフェアプレイを意識し、また審判を尊重した、気持ちの良い体育祭であったと思います。これも開会礼拝での体育祭企画実行委員会生徒のお話にあったように「互いの信頼」によって為し得たことだと思います。

また今年は26年間使われてきた入退場門を施設課の方々が新たに作り替えてくださいました。その木の柱に、約2ヶ月をかけて生徒たちがペンキまみれになりながら色付けをし、お陰様で晴天に映えるとても存在感のある入退場門を作り上げることができました。最後になりましたが、施設課の方々をはじめ、体育祭に関わってくださったすべての方に心より感謝申し上げます。

優勝 ゑ組 学年対抗パフォーマンス優勝 S3

(体育祭企画実行委員会顧問)

<課外活動紹介>

[クラブ] **J卓球部**

部長

J卓球部は、火曜日・木曜日・金曜日・土曜日の週4日活動しています。主な活動内容は、準備体操、柔軟、基本練習、サーブ練習、課題練習です。サーブ練習では新しいサーブの習得や、既に習得したサーブの精度を上げるための地道な練習を重ねています。課題練習では一人一人が今自分に足りない技術を考えて、自主的に練習をおこなっています。

卓球部は年に3回ある公式戦に向けて、元気に、 楽しく、時には厳しく、けじめをもって練習に取り 組んでいます。

[クラブ] **J ESS**

JESS は年に4回の舞台発表を中心に活動しています。毎年、文化祭終了後にJ3が引退し、J2に代替わりします。新しい部長を中心に、11月のOpen Campus では小学生になじみの深い Cinderella とSnow White を上演します。代が替わったばかりの舞台は、まだまだ演技も英語も拙いのですが、3月のJ3送別会、4月のJ1歓迎会の舞台発表を経て、演技力や歌唱力、ダンスがめきめきと上達していきます。文化祭の舞台では、夏休みの合宿を含め長い時間をかけて練習をした演技を披露し、好評を博しています。

(IESS 顧問)



[クラブ] **Sダンス部**

[クラブ] **Sコーラス部**

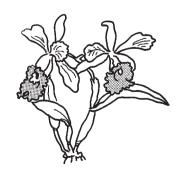
部長

部長

私たちは年3回(5月の愛校バザー、9月の文化祭、12月の聖なる集い)の舞台に向けて、週3~4回第2体育館1階で練習しています。S1とS2で構成されるメンバーで、キュート、ヒップホップ、ガールズ、ジャズなど幅広いジャンルを踊ります。先輩方がされてきたように、S2が中心となって曲決めから構成、振り付け、衣装まで、自分たちで考えています。それぞれに忙しさもあり、話し合いや練習は大変ですが、皆で一つの舞台を作り上げる楽しさ、達成感は何ものにも代え難く、かけがえのないものです。

Sコーラス部の活動

Sコーラス部は、今年で70周年を迎えます。現在、20人が所属しており、週に2回の活動と週に3回の朝練をおこないます。主な学内の発表機会は、音楽礼拝、文化祭、聖なる集いなどです。他に、阪神間の高校が、合同で企画、運営も生徒主体でおこなうジョイントコンサート、灘高等学校グリークラブ定期演奏会にも参加しています。アットホームな雰囲気で、楽しく練習に励んでいます。本番前などは練習も多く、大変だと思うこともありますが、その分本番で歌った時の達成感はひとしおです。



〈学院日誌〉

4月1日(月)	新任教職員就任式 オリエンテーション 墓前礼拝	5月25日(土) 5月29日(水)	愛校バザー 理事会 評議員会
4月2日(火)	臨時評議員会		理事会及び評議員会メンバーとの
4月3日(水)	大学・大学院入学式		懇談会
	学生寮入寮式	6月4日火	中高部体育祭
4月4日(木)	中高部教員会議	6月12日(水)	中高部教員会議
4月5日金	中学部入学式	6月16日(日)	オープンキャンパス
4月8日(月)	高等学部入学式	6月19日(水)	第1回中高部長候補者選考委員会
	中学部・高等学部始業式	6月21日金	教授会
4月17日(水)	中高部教員会議	6月26日(水)	理事会
4月19日金	教授会		神戸女学院教育振興会役員会
4月24日(水)	理事会		中高部教員会議
5月10日(金)	中高部教員会議	7月11日(木)	中高部教員会議
5月17日(金)	教授会	7月19日金	教授会
5月22日(水)	創立者記念日	7月24日(水)	理事会
	創立者記念日墓前礼拝	7月26日金	学院リトリート
	中高部教員会議	7月28日(日)	オープンキャンパス

目 次

武田清子先生の思想と神戸女学院の原点1	2019年度 キャリアサポートプログラム (予定)…40
KCC だより3	受入れ留学生報告41
愛校バザー報告・・・・・・・・・6	中期英語留学報告 · · · · · 43
神戸女学院教育振興会寄付金21	中期海外研修報告 · · · · · 43
神戸女学院2018年度決算報告及び2019年度事業計画…22	春期語学研修報告45
史料室の窓・創立者記念日110周年に思う 27	私の研究47
キャンパスお気に入りの場所28	ゼミ紹介48
大学報告	課外活動紹介49
KOBE "にさんがろく" 「ジュレ de かまぼこ」 で審査員特別賞受賞しました・・・29	中高部報告
門戸厄神―もっと躍進29	第11回日本地学オリンピック報告50
Flute Outreach Project · · · · · 30	第47回高校生英語弁論大会報告50
リベラルアーツ&サイエンスプログラム… 31	現代短歌が好き51
「面倒見がよい大学ランキング」にランクイン…31	兵庫県そろばんコンテストに出場して51
第11回臨床心理士による地域実践を考えるシンポジウム…32	中高部図書室報告52
カウンセリングルームシンポジウム「多様な性を生きるために」・・・32	2019年度中学部入学試験結果報告52
近畿初 "PCIT イニシャルワークショップ" 開催!…33	J 1 デイキャンプ報告60
産学連携知的財産アドバイザーの着任ご挨拶…33	大阪水上隣保館訪問を通して60
大学春季宗教強調日礼拝36	春の子ども会報告61
2018年度 神戸女学院大学図書館報告 36	2019年度 中高部体育祭 … 61
2019年度 大学・大学院入学試験結果概要…37	課外活動紹介62
2019年度 在籍学生数 … 37	課外活動紹介····62 学院日誌····64
2018年度 就職狀況報告38	

下記ページは個人情報保護等のため掲載しておりません。ご了承ください。 7, 19, 21, 34, 53, 55, 57 \sim 59